June 2024
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

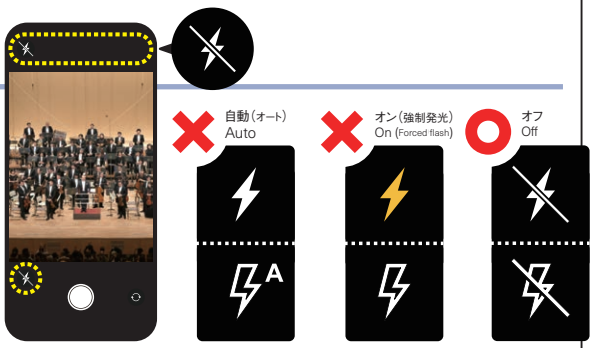
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が
「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法｜多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡（カミナリマーク）を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン（強制発光）」「自動（オート）」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらの2次元コードからアンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."

演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
（終演時のカーテンコールをのぞく）
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS
JUNE 2024

6

3 特集 最も心に残ったN響コンサート＆ソリスト 2023–24 ファン投票受付中

8 ［公演プログラム］Aプログラム
14 ［公演プログラム］Bプログラム
21 ［公演プログラム］Cプログラム

28 ［シリーズ］N響百年史 | 第47回 | ローゼンストック招聘の裏事情 片山杜秀

32 2024年9月定期公演のプログラムについて――公演企画担当者から
34 2024–25定期公演プログラム
40 チケットのご案内（定期公演 2024年9月～2025年6月）
41 特別公演／各地の公演
47 NHK交響楽団メンバー
48 特別支援・特別協力・賛助会員
52 曲目解説執筆者／Information
53 みなさまの声をお聞かせください！
54 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

55 Program A
59 Program B
64 Program C

68 The Subscription Concerts Program 2024–25
71 N響関連のお知らせ
72 N響の社会貢献
73 役員等・団友

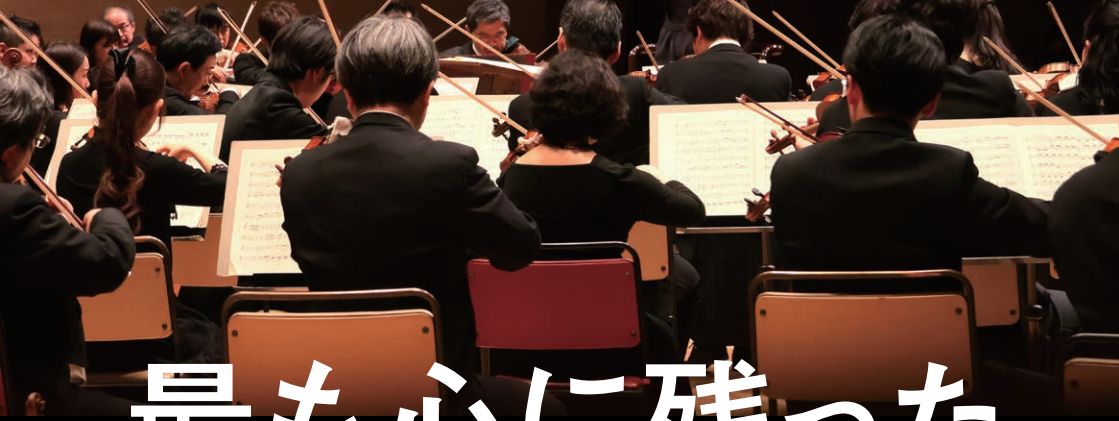
Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

特別支援	With Special Support of
岩谷産業株式会社	Iwatani Corporation
三菱地所株式会社	Mitsubishi Estate Co., Ltd.
MIZUHO みずほ銀行	Mizuho Bank, Ltd.
公益財団法人 渋谷育英会	Shibuya Scholarship Foundation
東日本旅客鉄道株式会社	East Japan Railway Company
NTT東日本	Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck



最も心に残った N響コンサート& ソリスト 2023–24

2023年9月～2024年6月の
定期公演を対象に

ファン投票受付中

昨シーズンから定期公演のシーズンに合わせる形で再開したファン投票企画
「最も心に残ったN響コンサート＆ソリスト」を、今年も実施いたします。
2023–24シーズン（2023年9月～2024年6月）のN響定期公演の中から最も心に残ったコンサート3つと
ソリスト1名（団体）を選んで投票してください。コメントやメッセージも大歓迎。
コメントやメッセージをN響ホームページや『フィルハーモニー』に掲載させていただいた方には、
N響グッズを進呈いたします。

結果発表は11月中旬の予定です。皆さまの投票を心よりお待ちしております。

Aプログラム｜NHKホール

2023年9月

9/9土、10日

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：マルティン・ヘルムヒェン★

- R. シュトラウス／交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快なたずら」
- R. シュトラウス／ブルレスケ★
- R. シュトラウス／交響的幻想曲「イタリアから」

2023年10月

公演中止

2023年11月

11/25土、26日

指揮：平石章人★
指揮：湯川紘恵◆

- スヴィリドフ／小三部作★
- プロコフィエフ／歌劇「戦争と平和」―「ワルツ」（第2場）★
- A. ルビンシテイン／歌劇「悪魔」のバレエ音楽―「少女たちの踊り」★
- グリンカ／歌劇「イワン・スサーニン」―「クラコーヴィアク」★
- リムスキー・コルサコフ／歌劇「雪娘」組曲★
- チャイコフスキー（フェドセーエフ編）／バレエ組曲「眠りの森の美女」◆

2023年12月

12/16土、17日

指揮：ファビオ・ルイージ
ソプラノ：ジャクリン・ワーグナー
ソプラノ：ヴァレンティーナ・ファルカシュ
ソプラノ：三宅理恵
アルト：オレシア・ペトロヴァ
アルト：カトリオーナ・モリソン
テノール：ミヒャエル・シャーデ
バリトン：ルーク・ストリフ
バス：ダーヴィッド・シュテフェンス
合唱：新国立劇場合唱団
児童合唱：NHK東京児童合唱団

- マーラー／交響曲 第8番「一千人の交響曲」

2024年1月

1/13土、14日

指揮：トゥガン・ソヒエフ

- ビゼー（シチェドリン編）／バレエ音楽「カルメン組曲」
- ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
- ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

2024年2月

2/3土、4日

指揮：井上道義
バス：アレクセイ・ティホミーロフ★
男声合唱：オルフェイ・ドレンガル男声合唱団★

- ヨハン・シュトラウスII世／ポルカ「クラップフェンの森で」
- ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番―「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」「ワルツ第2番」
- ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番「バビ・ヤール」★

2024年4月

4/13土、14日

指揮：マレク・ヤノフスキ

- シューベルト／交響曲 第4番「悲劇的」
- ブラームス／交響曲 第1番

2024年5月

5/11土、12日

指揮：ファビオ・ルイージ

- パンフィリ／戦いに生きて［日本初演］
- レスピーギ／交響詩「ローマの松」
- レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」
- レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」

2024年6月

6/8土、9日

指揮：原田慶太楼
ピアノ：反田恭平

- スクリャービン／夢想
- スクリャービン／ピアノ協奏曲
- スクリャービン／交響曲 第2番

Bプログラム｜サントリーホール

2023年9月

9/20(水)、21(木)

指揮：トン・コープマン
フルート：神田寛明

- **モーツァルト／交響曲 第29番**
- **モーツァルト／フルート協奏曲 第2番**
- **モーツァルト／交響曲 第39番**

2023年10月

10/25(水)、26(木)

指揮：尾高忠明
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンスネス

- **ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」**
- **ブラームス／交響曲 第3番**

2023年11月

11/15(水)、16(木)

指揮：ユッカ・ペッカ・サラステ
ヴァイオリン：ペッカ・クーシスト

- **シベリウス／交響詩「タピオラ」**
- **ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲**
- **シベリウス／交響曲 第1番**

2023年12月

12/6(水)、7(木)

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：アリス・紗良・オット

- **ハイドン／交響曲 第100番「軍隊」**
- **リスト／ピアノ協奏曲 第1番**
- **レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ**

2024年1月

1/24(水)、25(木)

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ヴァイオリン：郷古 廉
ヴィオラ：村上淳一郎

- **モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲**
- **ベートーヴェン／交響曲 第3番「英雄」**

2024年2月

2/14(水)、15(木)

指揮：パブロ・エラス・カサド
ヴァイオリン：アウグスティン・ハーデリヒ
ソプラノ：吉田珠代★

- **ラヴェル／スペイン狂詩曲**
- **プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番**
- **ファリャ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)★**

2024年4月

4/24(水)、25(木)

指揮：クリストフ・エッシェンバッハ
チェロ：キアン・ソルターニ

- **シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲**
- **シューマン／チェロ協奏曲**
- **シューマン／交響曲 第2番**

2024年5月

5/22(水)、23(木)

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：ルドルフ・ブフビンダー

- **ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番**
- **ニルセン／交響曲 第2番「4つの気質」**

2024年6月

6/19(水)、20(木)

指揮：鈴木優人
ヴァイオリン：イザベル・ファウスト

- **ウェーベルン／パッサカリア**
- **シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲**
- **バッハ(ウェーベルン編)／リチェルカータ**
- **シューベルト／交響曲 第5番**

Cプログラム｜NHKホール

2023年9月
9/15金、16土

指揮：ファビオ・ルイージ

・ワーグナー（フリーヘル編）／
楽劇「ニーベルングの指環」
―オーケストラル・アドベンチャー―

2023年10月
10/20金、21土

指揮：高関 健

・ニルセン／アラジン組曲
―「祝祭行進曲」「ヒンドゥーの踊り」
「イスファハンの市場」「黒人の踊り」
・シベリウス／交響曲 第2番

2023年11月
11/10金、11土

指揮：ゲルゲイ・マダラシュ
ピアノ：阪田知樹＊

・バルトーク／ハンガリーの風景
・リスト／ハンガリー幻想曲＊
・コダーイ／組曲「ハーリ・ヤーノシュ」

2023年12月
12/1金、2土

指揮：ファビオ・ルイージ

・フンパーディンク／
歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲
・ベルリオーズ／幻想交響曲

2024年1月
1/19金、20土

指揮：トゥガン・ソヒエフ

・リャードフ／交響詩「キキモラ」
・プロコフィエフ（ソヒエフ編）／
バレエ組曲「ロメオとジュリエット」

2024年2月
2/9金、10土

指揮：大植英次

・ワーグナー／ジークフリートの牧歌
・R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」

2024年4月
4/19金、20土

指揮：クリストフ・エッシェンバッハ

・ブルックナー／交響曲 第7番

2024年5月
5/17金、18土

指揮：ファビオ・ルイージ

・メンデルスゾーン／
「夏の夜の夢」の音楽―「序曲」
「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」
・メンデルスゾーン／交響曲 第5番
「宗教改革」

2024年6月
6/14金、15土

指揮：沖澤のどか
ピアノ：デニス・コジュヒン
女声合唱：東京混声合唱団＊

・イベール／寄港地
・ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲
・ドビュッシー／夜想曲＊

投票について

対象公演

2023–24シーズン N響定期公演(2023年9月～2024年6月)(A·B·Cプログラム 各9演目 計26演目／各演目2公演ずつ開催／10月Aは中止)。各公演の詳細は4～6ページをご参照ください。

投票資格

2023–24シーズンN響定期公演(2023年9月～2024年6月)をひとつでも聴いたことがある方。会場でお聴きになった方のみならず、テレビやラジオでご視聴になられた方もご投票いただけます。

投票方法

以下の二次元コードを読み取るかURLを入力し、N響ホームページの投票ページにアクセスして、最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)を選んでご投票ください。投票理由についてのコメントやN響へのメッセージもご記入いただけます。

ご投票はこちらから

https://www.nhkso.or.jp/news/MICS2023_24.html

郵便でもご投票いただけます。
必要事項(住所、名前、電話番号、メールアドレス[任意]、最も心に残ったコンサート[3つまで]、最も心に残ったソリスト[1名(団体)のみ]、メッセージ[任意])をご記入の上、下記までお送りください。

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係

コメントやメッセージをホームページ、フィルハーモニーに掲載させていただいた方にはN響グッズを進呈します。

締切

2024年9月27日(金)※郵便投票分は当日消印有効

〈投票上の注意〉

※ 投票はおひとり様1回でお願いします。同一の方からとみられる複数投票については無効票とさせていただきます。
※ 投票に際していただいたコメントなどは、N響ホームページや『フィルハーモニー』など、当団の媒体でご紹介させていただく場合がございます。

結果発表

[**中間発表**]2024年9月上旬をめどにN響ホームページなどで「最も心に残ったコンサート」のみ途中経過の順位を発表する予定です。

[**完全版**]2024年11月中旬にN響ホームページおよび『フィルハーモニー』2024年11月号などで、投票していただいたみなさまのコメントとあわせて発表いたします。

個人情報の使用目的について

※ 今回の投票で収集する個人情報のうち、氏名(ペンネーム可)は当団の媒体(ホームページ、フィルハーモニー)でコメントと共に紹介する場合がございます。また、氏名(ペンネーム可)およびメールアドレスは、コメントをホームページおよびフィルハーモニーに掲載させていただく場合に、取材や確認のためにご連絡させていただくために、そしてN響グッズの送付先をお伺いさせていただくために使用させていただきます。またその他の個人情報(投票内容、年齢、性別など)については、個人が特定されない形で統計的に処理した上で投票結果として発表させていただく場合があります。
※ 取材や確認のために編集部(一般財団法人NHK財団／株式会社アルテスパブリッシング)よりメールなどでご連絡させていただく場合があります。
※ 投票結果発表後、今回収集した個人情報は合理的な範囲で速やかに破棄します。今回のアンケートで記載いただいた個人情報を編集部(一般財団法人NHK財団／株式会社アルテスパブリッシング)以外の第三者に提供する事はございません。

この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。
公益財団法人NHK交響楽団 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL:03-5793-8120

PROGRAM

A

第2013回
NHKホール
6/8 土 6:00pm
6/9 日 2:00pm

指揮	原田慶太楼
ピアノ	反田恭平
コンサートマスター	郷古 廉

スクリャービン
夢想 作品24[4′]

スクリャービン
ピアノ協奏曲 嬰ヘ短調 作品20[29′]
Ⅰ アレグロ
Ⅱ アンダンテ
Ⅲ アレグロ・モデラート

――休憩（20分）――

スクリャービン
交響曲 第2番 ハ短調 作品29[48′]
Ⅰ アンダンテ
Ⅱ アレグロ
Ⅲ アンダンテ
Ⅳ テンペストーソ
Ⅴ マエストーソ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

原田慶太楼（指揮）

欧米やアジアを中心に目覚ましい活動を続けている気鋭の俊才。1985年東京に生まれ、インターロッケン芸術高校音楽科で指揮をフレデリック・フェネルに師事した。2006年21歳のときにモスクワ交響楽団を指揮してデビュー。その後ロリン・マゼールなどの薫陶を受け、タングルウッド音楽祭やPMFにも参加した。シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンからアメリカ・ジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督に就任。国内でも多くの楽団と共演し、2021年4月から東京交響楽団の正指揮者、2024年4月から愛知室内オーケストラの首席客演指揮者兼アーティスティック・パートナーを務めている。またオペラでも国内外で活躍。日本人初となるサー・ゲオルク・ショルティ・コンダクター賞のほか、渡邊曉雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞など、受賞歴も数多い。

2019年8月に初めてN響を指揮し、その後たびたび共演。2022年1月以来の定期公演出演となる今回、既成概念にとらわれないアプローチで清新かつ生気に満ちた音楽を生み出す彼が、演奏機会の少ないスクリャービン作品の魅力をいかに伝えてくれるのか？ 大きな注目が集まる。

［柴田克彦／音楽評論家］

反田恭平（ピアノ）

2021年第18回ショパン国際ピアノコンクールにおいて日本人最高位の第2位に輝く。

2015年にデビューCDをリリース、翌年にサントリーホールでのデビューリサイタルを満席の聴衆で埋め尽くした。以来、古典から近現代に至る独奏曲・協奏曲のレパートリーを拡大。2020年にはパリのサル・コルトー、ウィーンの楽友協会でのデビューをはたし、国内外での実績を積み上げていく。これまでにロシア・ナショナル管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー管弦楽団などと共演。

モスクワ音楽院、ショパン国立音楽大学などでピアノを、ウィーンで指揮を学び、近年では弾き振りを中心に指揮者としての活動も目覚ましい。2019年にレーベル、2021年にはオーケストラの株式会社を設立。若き音楽家の活躍の場を創出し、有言実行のリーダー的存在として次世代を牽引（けんいん）する。N響との共演は2022年1月定期公演以来の2年ぶりとなる。19世紀末に書かれたスクリャービン初期の協奏曲をニュアンスに富んだ音色で聴かせてくれることだろう。

［飯田有抄／クラシック音楽ファシリテーター］

Program Notes | 小室敬幸

原田慶太楼と反田恭平、このコンビでN響と共演するのは3度目となる。前回の原田は、ストラヴィンスキー《火の鳥》の組曲版ではなく、あえて演奏機会の少ない全曲版を取り上げ、慣習にとらわれることなく色彩豊かで立体感のある解釈を披露。今回もやや珍しい曲目を選んだのはそういう狙いもあるようだ。《ピアノ協奏曲》は“ロシア風ショパン”ともいえる作品なので反田にうってつけ。だが実は初挑戦だというから楽しみである。

スクリャービン

夢想 作品24

アレクサンドル・スクリャービン（1872〜1915）の音楽を深く理解するためには彼が強く影響を受けた「神智学」や、独自の「神秘和音」について知る必要があると思われがちだ。しかし今回の3曲は24〜30歳にかけて書かれたもので、そうした個性を発揮するより前の初期作にあたる。

モスクワ音楽院で学んだスクリャービンは、ピアノ科で優秀な成績を修めたが作曲科については先生のアントン・アレンスキーと馬が合わず、卒業することができなかった。1892年に学校を離れるとピアニストとして演奏活動を開始。ロシアの作曲家を熱心に支援していたミトロファン・ベリャーエフから気に入られたことが転機になる。1894年以降はベリャーエフの会社から継続的に楽譜が出版されるようになり、金銭的な支援も受けた。

スクリャービンにとって、後述するピアノ協奏曲に続く2作目の管弦楽作品となったこの《夢想》は、1898年11月にサンクトペテルブルクを訪れた際、ベリャーエフに贈ったサプライズプレゼントだ。1897年8月にスクリャービンが唐突に結婚したことに反対していたベリャーエフは、金銭的な支援を削減していたため、ご機嫌取りの狙いがあったのかもしれない。

当初の題名が「前奏曲」だったのは、スクリャービンが初期からたくさん書き続けたピアノのための前奏曲の延長線上に位置しているとみなしていたからなのだろう。形式も前奏曲に多い、3部形式になっている。だが、（舞台作品の前奏曲でもないのに）管弦楽曲にそのタイトルはふさわしくないとベリャーエフが提案し、作曲者本人と相談して《夢想》に落ち着いた。管弦楽法の名手であるリムスキー・コルサコフ（アレンスキーの師でもある）もこの作品を絶賛している。

作曲年代	1898年
初演	1898年12月17日（旧ロシア暦12月5日）、リムスキー・コルサコフ指揮、ロシアのサンクトペテルブルクにて
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、弦楽

スクリャービン

ピアノ協奏曲 嬰ヘ短調 作品20

ピアノと管弦楽のための作品を、スクリャービンは生涯に2つ作曲している。ひとつは彼にとって最後の管弦楽作品となった《交響曲第5番「プロメテウス（火の詩）」》（1910）で、音に対応した色彩が光で表現される「色光ピアノ clavier à lumières」を想定して書かれた晩年の集大成のひとつである。もうひとつがこの《ピアノ協奏曲》（1896〜1897）で、まだショパンの影響が濃厚に残る若書きの作品だ。

1894年からベリャーエフの支援を受けられるようになったとはいえ、どうやらピアニストとして名を売る必要から1896年秋、自作自演を前提にした協奏曲に取り組んだようだ。わずか数日のあいだに、あとはオーケストレーションをするだけという状態までもっていくも、この時点で管弦楽曲をきちんと仕上げた経験がなかったからか、肝心のオーケストラ譜は遅々として進まなかった。それでもベリャーエフは応援し続け、1897年4月にフルスコアが仕上がった。

第1楽章はソナタ形式。短い導入のあと、ピアノが最初に奏でるメランコリックな旋律が第1主題だ。続く第2主題は対照的に明るく甘い響きをもっている。対位法的に旋律が絡み合う展開部を経て、定型通りの再現部へ。コーダ（終結部）では冒頭にあった導入の要素も展開される。

第2楽章は、変奏曲になっている緩徐楽章。オーケストラが優しく提示する16小節の主題は感傷を極めたかのような旋律で、スクリャービンが10代で書いたものだという。第1変奏は、ピアノの細かいパッセージがセンチメンタルさを更に強調。第2変奏で前向きに動き出すがそれも一瞬、すぐに第3変奏で重厚なピアノが悩ましさを醸し出す。第4変奏は、管弦楽が対位法的に絡み合う。最後は回帰した主題をピアノが装飾してゆく。

第3楽章は自由なロンド・ソナタ形式。ショパンの影響が最も色濃い楽章だ。冒頭から登場する悲しくも力強い第1主題と、祈りが上昇してゆくような第2主題が核になっている。再び第1主題が登場するが、次第に展開部へとすり替わってゆき、第2主題のカノンでピークに達する。再現部を経て、最後はおもに第1主題が変奏されてクライマックスを生み出している。

作曲年代	1897年4月
初演	1897年10月23日（旧ロシア暦10月11日）、作曲者自身によるピアノ、サフォーノフ指揮、ロシアのオデッサ（現ウクライナ・オデーサ）にて
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

スクリャービン

交響曲 第2番 ハ短調 作品29

スクリャービンの交響曲といえば《第3番「神聖な詩」》(1904)、《第4番「法悦の詩」》(1907)、《第5番「プロメテウス(火の詩)」》(1910)が成熟期の作品として知られている。この《第2番》(1901)は演奏機会こそ少ないが、初期の集大成であると同時に、スクリャービンが音楽上で新しい道を歩み始めようとしている重要作なのだ。1901年夏、妻と子どもから離れて創作に集中するため滞在したパリでおもに作曲された。

すでに触れたように《ピアノ協奏曲》(1896〜1897)ではショパンの影響が大きかったスクリャービンだが、1900〜1902年にかけてはリヒャルト・ワーグナー(1813〜1883)に熱狂しており、ニーチェの「超人」を題材にしたオペラの作曲まで構想していたほどだった。その音楽的影響は、声楽付きの《交響曲第1番》(1900)の時点で明らかだが、この《第2番》では更に一歩前へ進んでリヒャルト・シュトラウス(1864〜1949)にも接近しているのが興味深い。

全5楽章で、3部形式による第1楽章以外はソナタ形式。また第1〜2楽章と第4〜5楽章はそれぞれ切れ目なく続けて演奏されるので、3部構成ともみなせる。特に第1〜2楽章の関係性や、最終的に第1楽章の主題が高らかに歌われてクライマックスを迎えるアイデアなどが、次の作品番号30にあたる《ピアノ・ソナタ第4番》へと繋がってゆくのも重要だ。

第1楽章(ハ短調)の冒頭でクラリネットが低い音域で奏する陰鬱な循環主題Ⅰと、中間部でヴァイオリン、次いでフルートが独奏する明るい響きの循環主題Ⅱは、全楽章を統べる主題となる。速くなるところからが**第2楽章**(変ホ長調)で、ノリの良いリズムで繰り返される第1主題は循環主題Ⅱを、最初はクラリネットが優しく奏でる第2主題は循環主題Ⅰを変奏したものだ。ミュートしたホルンの鋭い響きに導かれると展開部へ分け入ってゆく……。

第3楽章(ロ長調)はフルートによる鳥の鳴き声が印象的な緩徐楽章で、第1主題部は循環主題Ⅱを変奏したもの。やや分かりづらいが低音で執拗にリズム音型を繰り返す部分が第2主題部で、循環主題Ⅰに由来している。

第4楽章(ヘ短調)は嵐を描いたような音楽で、なおかつフィナーレの前兆であるため、ベートーヴェンの《田園》を意識している可能性がある。這い上がってくるような第1主題は循環主題Ⅱを、落ち着いてはいるが悲しみが積もってゆく第2主題は循環主題Ⅰを変奏したものだ。展開部のあとの再現部では、第2主題、次いで第1主題の順で回帰する。続けて演奏される**第5楽章**(ハ長調)は、長調となった循環主題Ⅰが第1主題に、循環主題Ⅱが第2主題となり、第1楽章を再現する役割も担っている。

作曲年代	1901年
初演	1902年1月25日(旧ロシア暦1月12日)、リャードフ指揮、ロシアのサンクトペテルブルクにて
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット3、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、タムタム、サスペンデッド・シンバル、弦楽

A
2024
JUNE
［第2013回］

神秘的で物憂げな、わが道をゆく

アレクサンドル・スクリャービン

Alexander Scriabin (1872–1915)

幼い頃からピアノの才能をみせたスクリャービンは、モスクワ音楽院へと進学。さまざまな音色、細やかなペダリング、レガート奏法など、繊細なピアニズムで高く評価されていた。作曲家としては、ショパンの影響を大きく受けながら、オカルティズムや神秘主義にのめり込み（超自然的な力を信じたり、自分と神とを同一視したり）、独特な作風を確立。晩年には神秘和音、色光ピアノなど独自の世界を拡げた。

切磋琢磨する仲間

モスクワ音楽院での同級生にはラフマニノフがいた。2人は音楽院入学前から、厳格な師ズヴェーレフのもとで共に学ぶピアニストの卵だった。小柄なスクリャービンは手が小さく、1オクターヴにもなかなか届かなかったという。ピアノの卒業試験はラフマニノフが1位で、スクリャービンが2位。新聞は2人のライバル意識を煽（あお）ろうとしたが、友情は変わらなかった。

手が大き〜いラフマニノフと、
手が小さ〜いスクリャービン
イラストレーション：©IKE

PROGRAM

B

第2015回
サントリーホール
6/19 水 7:00pm
6/20 木 7:00pm

指揮	鈴木優人
ヴァイオリン	イザベル・ファウスト
コンサートマスター	西村尚也◆

◆**西村尚也**：名古屋出身。4歳でヴァイオリンを始め、マンハイム国立音楽大学を最優秀の成績で卒業。これまでにパリ管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団などにゲスト・コンサートマスターとして招かれている。ハンブルク交響楽団第1コンサートマスターを経て、現在マインツ州立管弦楽団の第1コンサートマスター。

ウェーベルン
パッサカリア 作品1[11′]

シェーンベルク
ヴァイオリン協奏曲 作品36[32′]
Ⅰ ポーコ・アレグロ
Ⅱ アンダンテ・グラチオーソ
Ⅲ アレグロ

――**休憩（20分）**――

バッハ（ウェーベルン編）
リチェルカータ[8′]

シューベルト
交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485[29′]
Ⅰ アレグロ
Ⅱ アレグロ・コン・モート
Ⅲ メヌエット：アレグロ・モルト
Ⅳ アレグロ・ヴィヴァーチェ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

鈴木優人（指揮）

東京藝術大学卒業後、同大学院を修了。オランダのハーグ王立音楽院修士課程を修了後、指揮者、作曲家、ピアニスト、チェンバロ奏者、オルガン奏者として目ざましい活動を行っている。調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務め、NHK-FM『古楽の楽しみ』の案内役としても親しまれている。アンサンブル・ジェネシスの音楽監督として、さまざまな時代の多彩な作品をオリジナル楽器で取り上げる一方で、バッハ・コレギウム・ジャパンの首席指揮者、読売日本交響楽団の指揮者／クリエイティヴ・パートナー、関西フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者として活躍中。古楽器アンサンブルとモダン・オーケストラの双方で、作品に即したしなやかなアプローチを繰り広げ、注目すべき成果を収めている。NHK交響楽団に指揮者デビューしたのは、2019年12月の定期公演であるが、それ以前の2018年11月と2019年5月にオルガン奏者として共演を重ねてきた仲でもある。今回の定期公演では、ウェーベルンのロマンティックな初期作、彼の師匠であるシェーンベルクが十二音技法を用いた協奏曲、ウェーベルンが編曲した大バッハ、シューベルトの交響曲といった具合に、“ウィーン”という地を軸にしつつ、時代と音楽書法を自在に行き来する興味深いプログラムが組まれている。大いに期待したい。

［満津岡信育／音楽評論家］

イザベル・ファウスト（ヴァイオリン）

彼女ほど音楽に尽くすヴァイオリニストがほかにいるだろうか。舞曲を交えたバロックの無伴奏や新ウィーン楽派の調べ、近現代の精妙な作品に鮮やかなテクニックを披露するのはもちろんのこと、曲の背景やメッセージ性をも浮き彫りにする求心的な音楽観、探究心が素晴らしい。凛（りん）とした美音で創造の地平を拓く現代最高峰のアーティスト、イザベル・ファウストが2021年2月のシマノフスキ《ヴァイオリン協奏曲第1番》（指揮：熊倉優）以来、NHK交響楽団のステージに帰って来る。名伯楽クリストフ・ポッペンとデーネシュ・ジグモンディのもとで学び、1987年の第1回レオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリン・コンクール（アウグスブルク）、および1993年のパガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール（ジェノヴァ）優勝を契機に檜舞台（ひのきぶたい）に躍り出た。しかしファウストはキャリアを急がず、母国ドイツ、そしてフランス、スイスで研鑽（けんさん）を積む。近年の活躍はいちだんと目覚ましく、ジェルジュ・リゲティ生誕100年を記念したプロジェクトでも賞賛を博した。今回弾くシェーンベルクの《ヴァイオリン協奏曲》（1936）も十八番（おはこ）で、2019年にはダニエル・ハーディング指揮スウェーデン放送交響楽団と録音している。

［奥田佳道／音楽評論家］

ウィーンという街にはふたつの貌（かお）がある。ひとつはモーツァルトやベートーヴェン、そしてブラームスが活躍したドイツ・オーストリア音楽の「中心」という側面。そしてもうひとつは――地図を見ればすぐわかるように――チェコ、スロヴァキア、そしてハンガリーなどと接したヨーロッパの「周縁」的な側面。シューベルトと新ウィーン楽派の作曲家たちの共通点は、このふたつの貌をそのまま受けついだ点にあろう。いわば、正統的な「中心」にして、孤独な「周縁」。彼らの音楽の魅力は、そんな二律背反のなかに潜んでいる。

ウェーベルン

パッサカリア 作品1

「中心／周縁」だけでなく、新ウィーン楽派の音楽には、もうひとつのユニークな二面性がある。それは調性に対する革新的な態度の一方で、形式にかんしては極度の保守性を示す点だ。

一般に「現代音楽」の出発点とされる彼らの音楽は、性急なまでに無調への歩みを進めていったが、しかし形式については、むしろワーグナー以前へ逆戻りして、バロックからロマン派までのフォルムを頑ななまでに墨守しようとする。アントン・ウェーベルン（1883～1945）の記念すべき「作品1」である《パッサカリア》も、その例にもれない。

1908年、最初期の作品だから、まだ無調に足を踏み入れてはいない。それでもレ―ド♯―シ♭―ラ♭―ファ―ミ―ラ―レという基本の8音音列は、「シ♭―ラ♭」というあたりで相当な浮遊感を発揮する。

一方、形式はタイトルに示されている通り、バロック時代のパッサカリアそのもの。弦のピチカートで主題がまずは提示されたあと、律義に23の変奏とコーダが続く。もっとも、途中で長調へと転じるあたりもふくめてブラームスの《交響曲第4番》終楽章にそっくりだから、バロック→ブラームス→ウェーベルンという連鎖で考えるべきなのかもしれない。

24歳の筆であることを考えると驚くべき完成度を誇る作品だが、最初の変奏からフルート、クラリネット、ホルンと、順に楽器が足されてゆく特異な音色感覚は、すでにのちのバッハ編曲を予言するものといえよう。

作曲年代	1908年
初演	1908年11月4日、ウィーン、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、トライアングル、タムタム、ハープ1、弦楽

ヴァイオリン協奏曲 作品36

1933年10月、アルノルト・シェーンベルク（1874〜1951）は、ナチ政権を逃れて、パリ経由でアメリカに渡った。最初は東海岸で仕事を見つけたが、翌1934年に温暖な気候のカリフォルニアへと居を移す。彼はこの新天地で、誰に依頼されるともなくヴァイオリン協奏曲の作曲に取りかかった。

曲は1936年9月に完成。さて、問題は初演である。前代未聞といってよい難曲だけに並みの奏者では歯が立たないことは明らか。シェーンベルクが白羽の矢を立てたのは、ちょうどこの頃、やはり東海岸からロサンゼルスに転居してきたヤッシャ・ハイフェッツだった。彼は当時、世界最高のヴァイオリニストとして人気の絶頂にあり、これ以上は望めない人選といえよう。

しかしハイフェッツは、譜面を慎重に検討した結果、申し出を断ってしまう。彼が初演を断ったのは、おそらくは純粋に技術的な理由というよりは、十二音技法で書かれたこの楽曲を、自分なりに理解することが難しかったためだろう。結局、1940年になってから、ベルクの協奏曲初演でも知られるルイス・クラスナーが独奏を務めて、ようやく初演がかなったのだった。

ちなみに、十二音技法の見本のように語られるこの協奏曲だが、次のようなエピソードが残されている。曲のピアノ・リダクションを担当したグライスレが、楽譜上のいくつもの音列の間違いを手紙で指摘すると、シェーンベルクは「だからどうだというんです？」と答えたというのである（フライターク『シェーンベルク』）。つまり、シェーンベルクは、決してシステムに依存しているだけではなく、感覚的に音を選んでもいるわけだ。

第1楽章は3つの部分からなり、何よりリズムの多彩な発展が聴きどころ。最後には強烈なカデンツァ（これも古典派以来の伝統的なフォルムだ）が待っている。**第2楽章**は、管楽器のソロを生かした複雑な音色が特徴。そして行進曲風に始まる**第3楽章**は、おそろしく多層的な音楽であり、その様態はしばしば彼のオペラ《モーゼとアロン》の響きを思い起こさせる。作曲時期が近接しているから当然ともいえるのだが、この2曲を双子のようにとらえることも、ひょっとすると可能なのかもしれない。

作曲年代	1936年9月
初演	1940年12月6日、レオポルド・ストコフスキーの指揮、ルイス・クラスナーの独奏、フィラデルフィア管弦楽団
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ3、クラリネット1、Esクラリネット、バス・クラリネット、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、シロフォン、小太鼓、タンブリン、グロッケンシュピール、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、大太鼓、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

バッハ（ウェーベルン編）

リチェルカータ

第1次世界大戦終結後の1920年代。新古典主義と呼ばれる時代が到来すると、ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685～1750）の作品をオーケストラ用に編曲する試みが次々にあらわれた。有名なのは指揮者のストコフスキーによるバッハ編曲だろう。フィラデルフィア管弦楽団のゴージャスなサウンドによるレコードは世界的なヒットをとばした。ちなみにシェーンベルクも、1922年にバッハのコラール前奏曲を編曲している。

ウェーベルンがバッハの《音楽のささげもの》に含まれている、6声のリチェルカータ（「リチェルカータ」は、ほぼ「フーガ」と同義）を編曲したのは、少し遅れた1935年。もともとは経済的に困窮をきわめていた彼を見て、ウニヴェルザール社が勧めたのだという。流行に便乗して、少しお小遣いを稼いだらどうかというわけだ。

ところが、ウェーベルンの頭にあったのはまったく異なった編曲のかたちだった。構造の結晶のようなバッハ作品を、自らのやり方で彩色すること。彼は「音色のセリー」とでも呼びたくなるようなやり方を用いて、奇抜な色合いの編曲を行なうことに成功したのだった。

たとえば楽曲冒頭の主題、まずはトロンボーン→ホルン→トランペットという具合に、金管楽器が順に旋律を担当してゆくが、2回目の主題はこれに呼応するようにしてフルート→クラリネット→オーボエと、木管楽器によって担われる。このように入れ子状にさまざまな楽器が配されて、くるくると色合いを変えてゆくのである。

実際の効果としては、あまりにせわしないというか、やや「くどい」音色効果であることも否めない。しかしこうした実験的なオーケストレーションと、原曲にはないテンポの変化によって、バッハの編曲史にあらたな1ページが加わったのだった。

作曲年代	［原曲］1747年夏　［編曲版］1935年
初演	［原曲］不明　［編曲版］1935年4月25日、ロンドン、編曲者自身の指揮
楽器編成	フルート1、オーボエ1、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット1、ホルン1、トランペット1、トロンボーン1、ティンパニ1、ハープ1、弦楽

シューベルト

交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

先に、20世紀前半の「バッハ編曲ブーム」について触れたが、一方で20世紀末から生じているのが、現代作曲家によるフランツ・シューベルト（1797～1828）の編曲ブームである。もちろん「編曲」といっても原型をとどめないものが多いのだが、シューベルト作品の持つ多義性や曖昧さ、あるいは「冗長さ」といったものが、現代の作曲家を強く惹（ひ）きつけるのだろう。

シューベルトがこれだけ伸び伸びと自分の世界を広げることができたのは、歌曲以外はほとんど「商売」にならなかったせいでもある。現在これだけの人気を誇っているにもかかわらず、生前に出版された弦楽四重奏曲はわずかに1曲、交響曲にいたっては全く出版されていない。

1816年、作曲者19歳の年に書かれたこの《第5番》も、公的な演奏会のためではなく、ハトヴィヒ家の私的なオーケストラで演奏するために書かれたらしい。クラリネット、トランペット、ティンパニなどを含まない簡素な楽器編成は、おそらくはそのためだ。

第1楽章は、4小節の導入部に続いて主要主題があらわれる。分散和音が付点で上行するだけのシンプルな主題は、しかし曲全体を一瞬で象徴するような瑞々(みずみず)しさ。**第2楽章**は、おそろしく繊細な転調の数々が若き作曲家の感受性をよく示している。**第3楽章**はト短調という調性、スケルツォ的な性格などから、しばしばモーツァルトの《第40番》のメヌエット楽章との類似が指摘される。ただし、こちらの方がだいぶ「不純」だ。そして最後の**第4楽章**、小さな動きから驚くほど多彩な表情が産みだされてゆく様子は、一種、宇宙的な拡がりを感じさせる。

ちなみに、この交響曲が公開の席で初演されたのは、作曲者の死後10年以上が経過した1841年のこと。さらに驚くべきことに、総譜が出版されるまでには、初演からさらに40年以上という時間を要したのだった。

作曲年代	1816年10月3日
初演	[私的初演]1816年秋、ハトヴィヒ邸　[公開初演]1841年10月17日、ウィーン
楽器編成	フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、弦楽

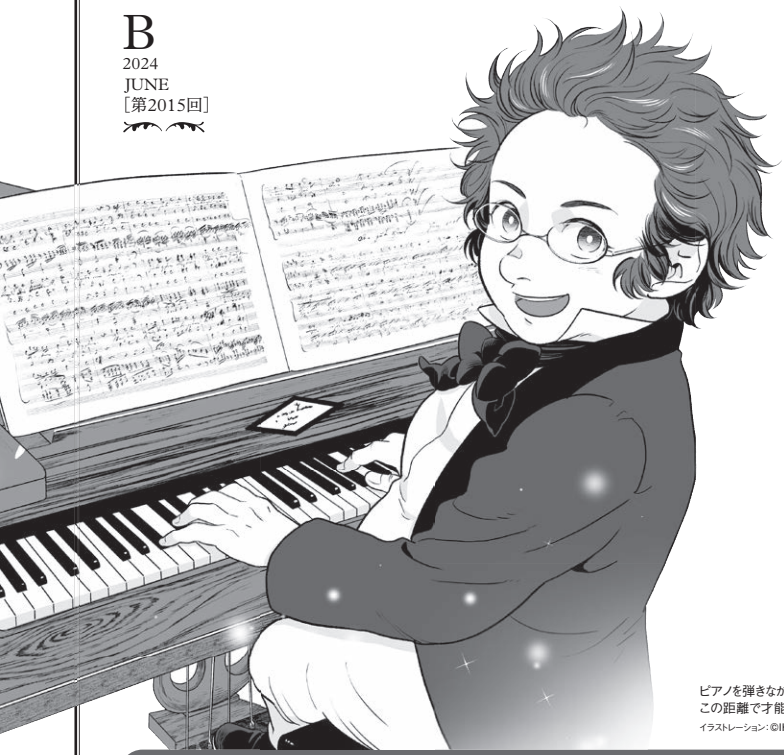
みんな大好き、ウィーンの宝

フランツ・シューベルト

Franz Schubert (1797–1828)

音楽の都ウィーン。モーツァルトやベートーヴェンはウィーンへと「上京」して名を成したが、シューベルトはウィーンで生まれ育ったウィーンっ子。11歳で宮廷礼拝堂の合唱児童になると、宮廷楽長サリエリ（モーツァルトのライバルであり、ベートーヴェンの師でもあった）のもと、たちまちに才能を開花させた。歌曲に代表される天衣無縫ののびやかな旋律は多くの友人を虜（とりこ）にしたが、商業的な成功を得る前に、31歳で若すぎる死を迎えた。

B
2024
JUNE
［第2015回］



ピアノを弾きながら、どうかな？と振り返る――この距離で才能を聴ける幸せ！
イラストレーション：©IKE

シューベルティアーデ

シューベルトの才能に惚（ほ）れ込んだ友人たちが、シューベルトを囲んで彼の音楽を聴くうち、やがてそれは「シューベルティアーデ」と呼ばれる小さな音楽会となっていった。気心知れたファンだけによる、とても親密な雰囲気の私的なコンサート。そこでの語らいは、シューベルト自身の創作活動にもおおいに還元された。

PROGRAM

C

第2014回

NHKホール

6/14 金 7:30pm

6/15 土 2:00pm

指揮	沖澤のどか
ピアノ	デニス・コジュヒン
女声合唱	東京混声合唱団★
コンサートマスター	郷古 廉

［開演前の室内楽（Cプログラム限定）］
14日（金）6:45pm～／15日（土）1:15pm～
フルート：甲斐雅之　ファゴット：水谷上総　ハープ：早川りさこ
ジョリヴェ／クリスマスのパストラール
※演奏はご自身の座席でお楽しみください。
※演奏中の客席への出入りは自由です。

イベール
寄港地［14′］
Ⅰ ローマ―パレルモ
Ⅱ チュニス―ネフタ
Ⅲ バレンシア

ラヴェル
左手のためのピアノ協奏曲 ニ長調［19′］
レント―アレグロ―テンポ・プリーモ

ドビュッシー
夜想曲★［22′］
Ⅰ 雲
Ⅱ 祭
Ⅲ シレーヌ

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。
※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください
N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

沖澤のどか（指揮）

ベルリンを拠点に国際的に活動する、今もっとも注目される若手指揮者のひとり。2023年4月より京都市交響楽団第14代常任指揮者を務めている。

青森県出身。東京藝術大学で指揮を高関健と尾高忠明に師事、その後ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンで学ぶ。2019年にブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、あわせてオーケストラ賞と聴衆賞も受賞した。2020年から2022年6月末までベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー奨学生およびキリル・ペトレンコのアシスタントを務め、2022年3月にはベルリンのベルヴュー宮殿でベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「ウクライナのための連帯コンサート」を指揮した。また、同年5月にはキリル・ペトレンコとともにカラヤン・アカデミー50周年記念公演に出演している。以後、バーゼル室内管弦楽団、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団、MDRライプツィヒ放送交響楽団、ミュンヘン交響楽団など世界各地の楽団に客演しながら、日本の主要オーケストラとも共演を重ねる。セイジ・オザワ松本フェスティバル2022では、モーツァルトの《歌劇「フィガロの結婚」》でサイトウ・キネン・オーケストラと共演し、絶賛を博した。

N響とは2020年の「夏のフレッシュコンサート」で初共演。定期公演には今回が初登場となる。フランス音楽プログラムでN響から精彩に富んだサウンドを引き出してくれることだろう。

［飯尾洋一／音楽ジャーナリスト］

デニス・コジュヒン（ピアノ）

1986年、ロシアのニジニ・ノヴゴロドで音楽家の家庭に生まれた。母の指導のもとピアノをはじめ、バラキレフ音楽学校で学んだのち、14歳でスペインのソフィア王妃高等音楽院に留学、ドミトリ・バシキロフとクラウディオ・メーネルに師事した。その後イタリアのコモ湖アカデミーでフー・ツォンやスタニスラフ・ユデニチらに、ドイツのシュトゥットガルトでキリル・ゲルシュタインに学んだ。

2006年リーズ国際ピアノ・コンクールで第3位、2010年エリザベート王妃国際音楽コンクールで優勝して注目され、翌2011年に初来日。N響定期公演への出演は2017年以来2度目となる。今回は、2017年の山田和樹指揮スイス・ロマンド管弦楽団との録音を始め、コジュヒンがたびたび披露しているラヴェル《左手のためのピアノ協奏曲》での共演とあって、すでに手の内に入った、鮮やかかつ遊び心あふれる表現に期待できる。レパートリーは幅広く、2023–24シーズンは、リゲティ、シェーンベルク、ルトスワフスキの記念年によせて彼らの協奏曲に取り組んでいる。

［高坂はる香／音楽ライター］

東京混声合唱団（女声合唱）

東京混声合唱団は1956年、東京藝術大学声楽科の卒業生有志により創立。中心メンバーの田中信昭が常任指揮者に就任、以後、日本における合唱音楽の発展をリードするかたちで実績を刻んできた。年間100回を超える一般公演や子どものための催し、内外のオーケストラとの共演、放送出演などに加えて海外公演も多数行い、日本の合唱作品の海外への紹介にも貢献。作曲委嘱活動は日本語の合唱作品がまだ少なかった創立当初からほぼ毎年つづけて、その数は250曲を超える。近年では海外の作曲家にも委嘱するなど、創作の幅は多彩に広がっている。

現在は田中信昭を桂冠指揮者に山田和樹が音楽監督・理事長を務め、常任指揮者にキハラ良尚、正指揮者に松原千振、大谷研二、コンダクター・イン・レジデンスに水戸博之、指揮者に高谷光信、山田茂を擁する。

［関根礼子／音楽評論家］

Program Notes｜神保夏子

19世紀末から両大戦間期にかけての数十年間は、今日の我々が思い浮かべる「フランス音楽」のイメージの根幹が形作られた時代であった。近代音楽史上のひとつの転換点となる第1次世界大戦前後、いわゆる「印象主義」音楽の確立から新古典主義の台頭やジャズの流行を経た1930年代初頭まで、各時期を彩る3つの作品を通して黄金期のフランス音楽のさまざまな貌（かお）を心ゆくまで堪能したい。

イベール

寄港地

第1次世界大戦への従軍を経て、1919年にフランスの作曲家の登竜門ローマ賞コンクールで大賞を獲得したジャック・イベール（1890～1962）は、受賞者に課される提出作品のひとつとして、この交響組曲を留学先のローマで作曲した。ドビュッシーやラヴェルより一回り以上年下の彼は、1920年代に「印象主義以後」の音楽を模索したフランス六人組の作曲家たちと同世代にあたる。もっとも、ドビュッシーの死から4年後の1922年に作曲された本作は、色彩豊かな管弦楽法や絵画的な主題、独特の異国情緒などの点でこの大作曲家の遺産を受け継ぐものであり、「3つの交響的絵画」との副題もまたドビュッシーの《海》（「3つの交響的素描」）などの作品を思わせる。「旅をしていると、蛇つかいからごみごみした街並みまで、あらゆるものに興味が湧く」とはイベールの言。作中で描き出される地中海沿岸の異国の街の印象は、大戦中の海軍での経験や直近の新婚旅行での船旅などから得たものだろうか。

第1曲はイタリアのローマからパレルモへの旅。地中海の爽やかな風や波のうねりを思わせる音楽の合間に、南方風の陽気なリズムが聞こえてくる。**第2曲**では舞台は北アフリカのチュニスとネフタに移り、オーボエ・ソロによってアラビア風の異国情緒あふれる旋律が奏でられる。**第3曲**で描き出されるのはスペイン南東部のバレンシアだ。心浮き立つようなリズム、タンブリンとカスタネットの響き――。音楽は終盤に向けていっそう活気を増し、興奮の渦のなかで締めくくられる。

C

作曲年代	1922年
初演	1924年1月6日、ポール・パレー指揮、ラムルー管弦楽団、パリ
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、シロフォン、小太鼓、トライアングル、タンブリン、カスタネット、タムタム、シンバル、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、チェレスタ、ハープ2、弦楽

ラヴェル

左手のためのピアノ協奏曲 ニ長調

ドビュッシーとともに「印象主義」の枠に括られることもあるモーリス・ラヴェル（1875～1937）だが、彼がドビュッシーの死後も20年近く生き、「印象主義以後」の音楽の新たな動向に敏感であったことは重要な事実だ。第1次世界大戦で右手を失ったウィーンのピアニスト、パウル・ヴィトゲンシュタインの委嘱で作曲された本作は、ラヴェルの戦前の多くの作品にみられたような詩的な標題を持たない、単一楽章の協奏曲である。作曲家は左手1本の独奏パートが貧弱な印象を与えないよう、やや重めの書法と「伝統的な協奏曲に近い様式」を用いたと述べているが、同時に、1920年代のパリで大流行したジャズの効果がそこに多く含まれていることにも注意をうながしている。

冒頭、低音の混沌（こんとん）とした響きの中からコントラファゴットのソロによる旋律が立ち現れ、ホルンの3度下行を基盤とする主題がこれに続く。オーケストラが大きな盛り上がりを見せたところで主役の「左手」がここぞとばかりに登場し、限られた演奏手段を逆手に取ったソリストらしい雄弁な表現と、視覚的にも印象深い演奏技巧のほどを披露する。短い叙情的なセクションを経て作曲者が「ジャズ」と呼ぶリズミカルな音楽が始まるが、一見冒頭とは対照的なこの部分は「実は冒頭部分と同じ主題に基づいて作られていることがあとからわかる」（ラヴェル）。最初の部分の主題がテンポ・プリーモで回帰したあと、ピアノの長大なカデンツァが展開され、作品は短い「ジャズ」の回想で終結する。

作曲年代	1929～1930年
初演	1932年1月5日、ローベルト・ヘーガー指揮、パウル・ヴィトゲンシュタイン独奏、ウィーン交響楽団、ウィーン
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、トライアングル、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、ウッド・ブロック、タムタム、ハープ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ドビュッシー

夜想曲

音楽用語でnocturne（夜想曲）といえば、ショパンのそれのような叙情的なピアノ曲がまっさきに想起される。しかし、3曲構成の管弦楽曲である本作で念頭に置かれているのは、そうした因習的なジャンルではなく、この語の本来の意味（「夜の」）――そしてそこから喚起されるあらゆるイメージである。

初演時に「これ以上に印象主義的な交響曲は想像しようがない」と評された本作は、《牧神の午後への前奏曲》（1892～1894）で独自のスタイルを確立したクロード・ドビュッシー（1862～1918）が、自らの管弦楽語法においてさらなる新境地を切り拓いた作品といってよい。作曲には2年ほどの歳月が費やされているが、そこに至るまでに、構想上関連すると思われる2つの未完の計画――アンリ・ド・レニエの詩による管弦楽曲《3つのたそがれの情景》（1892～1893）と、同じく《夜想曲》の名を持つヴァイオリンと管弦楽のための作品（1894～1896）――を経由していることもあってか、同時期に進行していた5幕のオペラ《ペレアスとメリザンド》（1893～1902）よりもこの（管弦楽のための）《夜想曲》の3曲にはてこずった、と作曲者は述べている。

第1曲〈雲〉では、雲の動きを思わせるゆるやかな和音の連なりに、繰り返し現れるイングリッシュ・ホルンのくすんだ旋律が陰影を添える。終盤、フルートで提示されるペンタトニックの新たな主題は、モノトーンの響きのなかにたそがれの光が差し込むような印象深い瞬間をもたらし、最後は「わずかに白がかった灰色の苦悩で終わる」。

第2曲〈祭〉は「突然の光の輝きに揺れる大気の動き」と形容される、律動的で活気のある楽章。タイトルのルーツを問われたドビュッシーは、「ブーローニュの森の祭についての、もう遙（はる）か昔のものとなった印象」を挙げている。

第3曲〈シレーヌ〉では、船乗りを惑わすセイレーン（シレーヌ）たちの神秘的な歌声（女声合唱はこの楽章のためだけに用いられる）が、「月の光で銀色に輝く波間から」――すなわちオーケストラのゆらめく響きのなかに溶け込むように――聞こえてくる。

作曲年代	1897～1899年
初演	1900年12月9日（第1・2曲）、1901年10月27日（全曲）、ともにカミーユ・シュヴィヤール指揮、ラムルー管弦楽団、パリ
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、ハープ2、弦楽、合唱（ソプラノ、メゾ・ソプラノ）

C
2024
JUNE
［第2014回］

ゆらめく色彩、美しい情景

クロード・ドビュッシー

Claude Debussy（1862–1918）

進取の気性に富み、自由を重んじたフランスの作曲家ドビュッシー。自分の表現したい音楽は伝統から逸脱したところにあると、かなり早い段階で意識したようだ。手紙などで「新しい形式を生み出さねばなりません」「リズムは小節のなかに収まらない」と綴り、32歳で初演された《牧神の午後への前奏曲》でいよいよ自らの進む方向を決定付けた。印象派と呼ばれ、後世に大きな影響を残した。

印象派

もとは、19世紀後半のフランスで生じた、自然の光やきらめきといった印象を重んじて、明確な輪郭線を排した絵画を指した用語。音楽では、形式にこだわらず、情景を描写するような色彩感を重要視した作風を指す。ドビュッシーのゆらめく独特の響きは、従来の和声に頼らない、さまざまな手法・技法によって成り立っている。

月の光とセイレーンが入り込んだ
ホイッスラーの絵画『青と銀のノクターン』を眺めるドビュッシー
イラストレーション：©IKE

N響百年史

第四十七回 ― ローゼンストック招聘の裏事情

片山杜秀 ― Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。人気、実力、相性、すべてがうまく運ぶかに思えた貴志康一と新響とのコンビは、貴志の病であっけなく終わってしまい、オーケストラは再び指揮者探しをはじめます。

大田黒の批評

大田黒元雄（1893～1979）。音楽批評家である。大田黒重五郎の一人息子だ。重五郎は三井物産を経て、電力業界に重きをなし、のちに東芝に発展してゆく芝浦製作所や、今日の西日本鉄道の前身の九州電気軌道など、電力以外のたくさんの大企業の経営にも尽くした。日本近代の大実業家のひとりである。その子はピアノを学び、ロンドンに留学し、第1次世界大戦の頃から日本における西洋音楽の啓蒙家、批評家として活躍した。財産も父にかなり自由に使わせてもらっていたから、芸術界のパトロンにもなった。たとえばプロコフィエフがロシア革命を避けてシベリア鉄道経由で日本に至り、結局、米国に亡命するまで、しばしの滞日生活を送ったとき、面倒をみていたのは大田黒だ。

そんな彼が、1936（昭和11）年4月14日の新交響楽団の演奏会の批評を書いた。ドイツを代表するピアニスト、ウィルヘルム・ケンプを招き、貴志康一が指揮をして、大いに盛り上がり、ソリストも指揮者もオーケストラも気を良くしていた。大田黒はこのコンサートの評判に冷や水を浴びせた。4月16日の東京朝日新聞から引く。

「協奏曲の場合の新響の出来はどうも香ばしくなかつた。多忙のために練習不足なことはわかつてゐるけれど、それにしても貴志君が例によつて全部暗譜でしかも正確に指揮した熱心な努力を思へば、楽員諸君も真剣に勉強してもう少ししつかりと責任を果たすべきであつたらう」

オーケストラは内心で怒ったというレベルを超えて苛烈に反応した。機関誌『フィルハーモニー』の1936年5月号に新交響楽団の名義で「大田黒元雄氏への公開状」を掲載した。曰く

「今度の大田黒氏の批評には不幸黙し得ないのであります」。オーケストラが拠って立つのはとりあえずソリストからもらった好評価である。ケンプは演奏会終了後、とても興奮して感激しつつ、新交響楽団に次のように伝えたのだという。

「今夜の演奏は素晴らしい芸術的演奏でありました。こんな立派な演奏は私としては伯林でもそう何回も経験してゐません。新響がこんな立派な藝術的演奏を示されたことはまことに感激に堪へません」

それなのに「我々の最も尊敬する日本の批評家の一人大田黒元雄氏」は大演奏家の実感のこもった言葉とは「全然反対の批評を述べられた」。まったく理解しえない。演奏成果の実体と違い過ぎるのではないか。新交響楽団は言う。「例へば練習の点については、新響としてはかつてない程の回数を重ね、（そのため多忙なケンプ氏をして無理に数回来て頂いた）楽員また非常に熱心に真剣に練習し、演奏したつもりであります」。ところが大田黒は、オーケストラが練習不足とか責任を果たしていないとか、書き連ねている。書き捨て御免では済まされまい。「願はくば大田黒氏よ」、どうして新交響楽団が「真剣に勉強してもう少ししっかりと責任を果たすべき」と小言をいわれねばならぬのか、「具体的な根拠を示」してみよ。

「政治的」綱引き

ここで新交響楽団は、的外れな評しか書けない無能な批評家を叩き潰さなくては気が済まぬと、ついつい高ぶってしまったわけではない。何しろ相手は職業的音楽批評家としては当代随一と目される大田黒なのだ。伝わるべき演奏内容は伝わっているはず。にもかかわらず「香ばしくなかつた」とか「練習不足」とか書くのは、政治的意図があって、演奏内容をわざと枉げ、オーケストラを貶めようとしているからに違いない。新交響楽団はそう思い、大田黒が同じ調子で「政治」を続けるなら、こちらにも覚悟があると、一種の牽制球を投げたのだと考えられる。

どういうことか。時期が時期であったのだ。その頃、東京に新交響楽団の競争相手が現れそうな状況が急展開していた。大田黒は新交響楽団よりもそのライヴァルの方と親密に見えていた。はて、ライヴァルとは？ 今日の東京フィルハーモニー交響楽団である。

ここで話は遡る。この団体の発祥の地は東京ではない。名古屋だ。同地のいとう呉服店が客寄せのために少年音楽隊を結成したのは、1911（明治44）年のこと。1905（明治38）年に日露戦争が終わって国民的緊張が解けだすと、民衆は国民よりも市民になって、文化芸術、娯楽芸能、消費生活、物質的幸福を味わいたいと願うようになってゆく。その流れの中で西洋式の大劇場や百貨店への憧れが育ち、名古屋でもいとう呉服店が百貨店としての松坂屋へと発展してゆくのだが、そこに少年音楽隊が随伴した。はじめは鼓笛隊や小規模の吹奏楽団のようなものである。お店をにぎやかにし、市中でお店を宣伝するのに、西洋風に着飾った男の子たちが西洋楽器を演奏して練り歩いたり、ミニ・コンサートを開いたりするのは、明治の終わりから大正にかけての都市文化を彩る流行現象であった。新交響楽団のメンバーにも東京の百貨店の少年音楽隊から叩き上げた演奏家らが含まれていた。本連載でも過去に触れている（2019年9月号）。

名古屋のいとう呉服店改め松坂屋の少年音楽隊はというと、海軍軍楽隊出身の早川弥左衛門を指揮者としてメンバーを増やしつつ、技

量を高め、少年の音楽隊から青年のオーケストラとなって、1932（昭和7）年からは名古屋交響楽団と名乗るに至る。そして、新交響楽団が近衛と訣別して今後どうなってゆくかとても不安定だった1935（昭和10）年から翌年の時期に、東京進出を本格的に企て始める。名古屋がいくら中部地方の大都市であるといっても、当時は大阪でもまだ職業的オーケストラは成り立っていない。名古屋で少年音楽隊が百貨店から自立して職業的交響楽団として育ってゆくというのには無理がある。早川弥左衛門もそれなりの指揮者ではあるが、自分の人気や実力では東京進出は果たせまいと思っている。ならば新交響楽団を追い出された近衛秀麿を迎えればいい。早川のアイデアである。近衛も少し乗り気になったようだ。近衛としては欧米に活躍の場を求めたい。しかし母国にも自分の言うことを聞くオーケストラが欲しい。有力候補はどうしても既存の名古屋交響楽団になる。近衛が新交響楽団のコンサートマスターに招きたかった鈴木鎮一も、このオーケストラに近しかった。もしも鈴木が楽団員のトップになり、近衛が音楽監督的立場に就くなら、新交響楽団に対抗できる格にまで短期で育てられるかもしれない。

いまだ残る近衛の影

1936（昭和11）年3月。ヴァイオリンのシモン・ゴールトベルクとピアノのリリー・クラウスが来日した。この招聘にはもともと近衛がかかわっていた。日比谷公会堂で協奏曲の演奏会も組まれていた。普通なら協演するのは新交響楽団だろうが、近衛がらみではそうはゆかない。名古屋から呼ぶことにした。名古屋交響楽団が中央交響楽団と名乗って東京での本格デビューを果たした。日本の国土の中央にあたる中部地方のオーケストラだから中央交響楽団というわけだ。

新交響楽団はギョッとした。中央交響楽団は今後、東京での出演機会を増やそうとするのみならず、すぐにでも東京に本拠地を移転させようとするのではないか。事実、早川にはそういう意図があった。もしもそうなれば、東京で楽団間の競争が始まる。それはそれで楽壇を活気づかせ、音楽ファンを楽しませるだろう。新交響楽団は挑戦を受けて立てばよい。それだけなら別に驚くことでもない。新交響楽団がギョッとしたのはもっと生々しい事柄を思い描いたからだ。新交響楽団は荏原に練習場を持つ。活動全般の最大の拠点だ。でもその土地も建物も、もとは近衛が私財を投じて購入し建てさせたものだ。近衛を追い出したあとも、権利は相変わらず近衛にある。近衛は新交響楽団を荏原から駆逐しようと思えば、すぐにでもそうできるのだ。でもそうしていない。華族筆頭の近衛家の人間として公益のために私を犠牲にする態度を示しておくのが賢明だからという判断に基づくのだろう。しかし、近衛が名古屋交響楽団こと中央交響楽団を率いて、そこに私財をつぎ込むかたちになったらどうだろう？ 荏原を中央交響楽団の練習場にしたいから、新交響楽団には出て行ってもらう。これなら世間も納得しそうだ。新交響楽団は拠点喪失に追い込まれる可能性がある！

さらに日本放送協会との関係も危うくなるかもしれない。放送局は、番組に出演してくれるオーケストラがないと困るので、近衛を切って新交響楽団とよりを戻すかたちにしてはいるものの、その関係はまだかりそめだ。なぜなら新交響楽団は組合組織化を宣言し、その通りに動いている。組合の力で近衛を追い出せもした。そうした過激な労働運動は当時の日本放送協

会として断じて容認できない。ゆえにいちいちの出演契約を重ね、そのつど、番組出演料を払うことはあっても、かつてのようにまとまった金額を補助して、楽団を組織として庇護してゆく立場には戻れない。組合自治を止めてもらわねば真の復縁はできない。そういうところに、もしも近衛率いる非組合組織のオーケストラが出現したら、日本放送協会はそちらに乗り換えるに決まっているではないか。

それぞれの裏事情と思惑

新交響楽団は大慌てで動いた。先手を打った。日本放送協会に、オーケストラを組合で運営することにもうこだわらないから、昔の関係に戻してほしいと頼み込んだ。そこで新交響楽団側は大事な条件を提示したようである。組合による、つまり楽団員の意思によるオーケストラの運営を放棄するからといって、そこで近衛を戻そうとする振る舞いは絶対に不可ということ。それから荏原の練習場を日本放送協会が近衛家から正式に借りて、新交響楽団が追い出しをくらわぬようにしてもらいたいということ。事実上、組合でなくなるなら、放送局としてそれで文句はない。日本放送協会は近衛と交渉した。新交響楽団は疑心暗鬼で想像力を逞しくしたが、近衛は名古屋のオーケストラに深入りするかどうか決めあぐねていたし、荏原の練習場を日本放送協会に任せ、結果として新交響楽団が使い続けることにも、近衛として異論はなかったようだ。

ただ、近衛はそこでひとつ頼み事を放送局にしたらしい。近衛がベルリンから日本に招聘したかたちで、この国に長期滞在しようとしている大音楽家、レオニード・クロイツァーの面倒をみてもらえないかということである。放送局もある程度の約束をしたらしい。その中身は定かではない。が、クロイツァーは具体的には新交響楽団を指揮していきたいという意向を有しており、近衛は自分の代わりにクロイツァーを置いてゆくようなシチュエーションを作り出そうとしていたのだから、結局、新交響楽団を率いる立場にクロイツァーを据える可能性について、放送局が近衛とクロイツァーにそれなりの言質を与えたのだと想像される。

新交響楽団の面々はかなりまずいと思ったはずだ。当てにしていた貴志も病に臥して復帰できるかよくわからない。近衛がクロイツァーを操って新交響楽団への影響力の回復をはかるかもしれないその前に、できれば1936年の秋のシーズンの始まる前に、誰もがクロイツァーに負けぬと思うクラスの名指揮者を、貴志に代わる日本人は当面出てこなかろうから、やはり欧米から何が何でも連れてこなければなるまい。そうしたらついにうってつけの大物が見つかった。ジョセフ・ローゼンストック（ヨーゼフ・ローゼンシュトック）である。

文｜片山杜秀（かたやま もりひで）

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大楽必易』ほか著書多数。

2024年9月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

首席指揮者**ルイージ**が就任3年目を迎える。2024–25シーズンには、ブルックナー、マーラーをはじめとする重量級の作品が並ぶことになった。2025年5月のマーラー・フェスティバル出演に向けて、N響得意のドイツ音楽に磨きをかけ、世界への飛躍に繋(つな)げたい。そんなマエストロの熱い思いとともに、新しいシーズンが始まる。

N響100年の歴史で初めて演奏するブルックナーの《第8番》初稿版

［Aプログラム］は、**ブルックナー《交響曲第8番》（初稿／1887年）**。自作の改訂癖で知られるブルックナーだが、《第8番》も例外ではなく、周囲の批判的な声を受けて、徹底的に手を加えた。こうして初稿の3年後に完成したのが1890年改訂稿である。簡単に言えば、枝葉を刈り込み、全体の統一感を高めた改訂稿、それ以前のプリミティヴで、素朴な信仰心を残した初稿、という対比で語ることができよう。

今日のスタンダードは改訂稿だが、ルイージは一貫して初稿の方を高く評価してきた。特に「音楽史上もっとも偉大な」第3楽章は、改訂によって大切な何かが失われてしまったという。彼によれば、この曲は「単純明快な手法で組み立てられた壮大な建造物」である。その長所は、初稿を用いることでよりストレートに伝わる。目新しさを求めてではなく、必然性のある選択なのだ。初稿版での演奏は、100年近いN響の歴史を通じて初めてのこと。ルイージ在任中のハイライトとなるに違いない。

ルイージが名曲《第7番》を通じてベートーヴェン演奏の意味を問う

［Bプログラム］は**ベートーヴェン《交響曲第7番》**。よく知られた名曲を高い水準で聴かせることは、首席指揮者の大切な役割である。今という時代にベートーヴェンを演奏することはどんな意味を持つのか。音楽を届ける側は、常にそれを意識し続けなければならないとルイージは語る。届けられたメッセージをどのように受け止めるかは、私たち聴き手の一人ひとりにかかっている。

シューマン《ピアノ協奏曲》を弾く**エレーヌ・グリモー**は、かつて「水」や「自然」をテーマにしたリサイタルを開いたことがあるが、彼女の演奏そのものも、水のイメージと分かちがたく結びついている。よどみなく流れながら、せせらぎから奔流まで、多彩な表情を描き分けるのだ。得意のシューマンでN響と共演するのは20年ぶり。

魔法のような瞬間が現れることを期待したい。

冒頭にはルイージらしく、イタリアのテイストを加えた。**シューベルト《イタリア風序曲第2番》**は、当時ウィーンで流行っていたロッシーニの音楽を取り入れた作品。ルイージの敬愛するサヴァリッシュが好み、30年近く前の定期公演で取り上げたことを思い出す。N響が演奏するのはそれ以来となる。

正指揮者・尾高忠明が贈る 理屈抜きで楽しめる《白鳥の湖》

［Cプログラム］の**チャイコフスキー《白鳥の湖》**は、バレエそのものはもちろん、音楽だけ取り出して聴いても、万人に訴えかける魅力を備えている。正指揮者・**尾高忠明**も、以前この曲をイギリスで指揮し、大いに喝采を浴びたという。

今回の抜粋版は、有名な〈情景〉や〈小さい白鳥の踊り（4羽の白鳥の踊り）〉のほか、各国の特徴的な踊り、スケールの大きなフィナーレなど、全4幕の聴きどころをバランスよく含んだ構成になっている。初めてオーケストラを聴く方にも、理屈抜きで楽しんでもらえることだろう。

《ロココ風の主題による変奏曲》でソリストを務めるのは、首席チェロ奏者の**辻本玲**。小学生の頃、テレビで見たヨーヨー・マの《ロココ》に惹（ひ）きつけられたことが、チェリストを志すきっかけになったという。その後、師事したアルト・ノラスには、この曲で熱血指導を受け、ブリリアントな奏法に磨きをかけた。「今までで いちばん緊張した」というN響のオーディションで弾いたのも《ロココ》である。

人生の節目節目で縁のあった大切な作品を、今回初めてN響の仲間とともに奏でる。

［西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹］

A
9/14 土 6:00pm
9/15 日 2:00pm
NHKホール

ブルックナー生誕200年
ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調（初稿／1887年）
指揮：ファビオ・ルイージ

B
9/19 木 7:00pm
9/20 金 7:00pm
サントリーホール

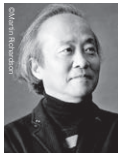
シューベルト／イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591
シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92
指揮：ファビオ・ルイージ　ピアノ：エレーヌ・グリモー

※2024年9月よりBプログラムの日程を「木曜7:00pm／金曜7:00pm」に変更させていただきます。

C
9/27 金 7:00pm
9/28 土 2:00pm
NHKホール

チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲 作品33
（フィッツェンハーゲン版）★
チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」作品20（抜粋）
指揮：尾高忠明　チェロ：辻本 玲（N響首席チェロ奏者）**★**

※2024年9月よりCプログラムを「休憩あり・2時間程度」の公演とさせていただきます。
また、金曜日の開演時刻を7:00pmに変更させていただきます（土曜日は従来通り2:00pm開演）。



PROGRAM

A

最高峰の指揮者、ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。

オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

土 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2024 09 September

第2016回

9/14 土 6:00pm

9/15 日 2:00pm

ブルックナー芸術の金字塔《第8番》で新シーズン開幕

ブルックナー生誕200年

ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調（初稿／1887年）

指揮：ファビオ・ルイージ

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024 10 October

第2020回

10/19 土 6:00pm

10/20 日 2:00pm

オネゲルとブラームスの暗き情熱の渦に身をゆだねる

オネゲル／交響曲 第3番「典礼風」

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024 11 November

第2022回

11/9 土 6:00pm

11/10 日 2:00pm

山田和樹 N響定期に凱旋！ お家芸のレパートリーを披露

ルーセル／バレエ音楽「バッカスとアリアーヌ」作品43
　—組曲 第1番

バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番

ラヴェル／優雅で感傷的なワルツ

ドビュッシー／管弦楽のための「映像」—「イベリア」

指揮：山田和樹

ピアノ：フランチェスコ・ピエモンテージ

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Winter

2024 12 December

第2025回

11/30 土 6:00pm

12/1 日 2:00pm

※12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。

ドイツ・ロマン主義の馥郁たる香気に包まれる

シェーンベルク生誕150年

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」
　—「前奏曲と愛の死」

R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1*、
「なつかしいおもかげ」作品48-1*、
「森の喜び」作品49-1*、「心安らかに」作品39-4*、
「あすの朝」作品27-4*

シェーンベルク／交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5

指揮：ファビオ・ルイージ　ソプラノ：クリスティアーネ・カルク*

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
01 January
第2028回
1/18 土 6:00pm
1/19 日 2:00pm

ソヒエフが《レニングラード交響曲》に万感の思いを込める

ショスタコーヴィチ／
交響曲 第7番 ハ長調 作品60「レニングラード」

指揮:トゥガン・ソヒエフ

©Marco Borggreve

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
02 February
第2031回
2/8 土 6:00pm
2/9 日 2:00pm

チェコが生んだ新時代の巨匠ポペルカがN響デビュー

ツェムリンスキー／シンフォニエッタ 作品23
R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11
ドヴォルザーク／交響詩「のばと」作品110
ヤナーチェク／シンフォニエッタ

指揮:ペトル・ポペルカ
ホルン:ラデク・バボラーク

©Vitali Bialinki

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2025
04 April
第2034回
4/12 土 6:00pm
4/13 日 2:00pm

**ベルリオーズとプロコフィエフ
通底するテーマは「さすらい人」**

ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*
プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調
作品112(改訂版／1947年)

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ヴィオラ:アントワーヌ・タメスティ*

©Kaupo Kikkas

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
05 May
第2036回
4/26 土 6:00pm
4/27 日 2:00pm
※5月定期公演Aプログラムは
4月に開催いたします。

**ヨーロッパ公演に先駆け
勝負曲を定期公演で披露**

マーラー・フェスティバル2025 演奏曲

マーラー／交響曲 第3番 ニ短調

指揮:ファビオ・ルイージ
メゾ・ソプラノ:オレシア・ペトロヴァ
女声合唱:東京オペラシンガーズ
児童合唱:NHK東京児童合唱団

©Yusuke Miyazaki (SEPT)

一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2025
06 June
第2039回
6/7 土 6:00pm
6/8 日 2:00pm

**巨匠が魂を込めて振る
チャイコフスキー最後の交響曲**

リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲
ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲
作品43*
チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調
作品74「悲愴」

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ
ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*

©Dmitri Gorzhaev

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

2024–25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
豪華なソリストたちの至芸にも期待。

サントリーホール ｜ 木 7:00pm 金 7:00pm

※本シーズンより日程を「木曜7:00pm／金曜7:00pm」に変更させていただきます。
現在水曜日の定期会員の方は2024–25シーズンでは木曜日に、現在木曜日の方は金曜日に現在と同じ座席をご用意します。該当する定期会員の方への詳しいご案内は、2024–25シーズンの定期会員券更新手続きの際にお知らせします。

Autumn

2024
09 September
第2017回
9/19 木 7:00pm
9/20 金 7:00pm

ルイージと巡る ドイツ・オーストリア 王道の系譜

シューベルト／イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591
シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：エレーヌ・グリモー

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2024
10 October
第2019回
10/10 木 7:00pm
10/11 金 7:00pm

ブロムシュテットが贈る北欧音楽の花束

シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22
　―「トゥオネラの白鳥」
ニルセン／クラリネット協奏曲 作品57
ベルワルド／交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
クラリネット：伊藤 圭（N響首席クラリネット奏者）

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2024
11 November
第2024回
11/21 木 7:00pm
11/22 金 7:00pm

透徹した音楽性が際立つスロボデニューク
母国ロシアの作品で定期初登場

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」
　―「銅山の女王」「結婚組曲」
ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲

指揮：ディマ・スロボデニューク
ヴァイオリン：ニキータ・ボリソグレブスキー

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Winter

2024
12 December
第2026回
12/5 木 7:00pm
12/6 金 7:00pm

ルイージが屈指の名曲で掘り起こす スラヴ音楽の魅力

スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
ムソルグスキー（ラヴェル編）／組曲「展覧会の絵」

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：ネルソン・ゲルナー

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025
01 January
第2030回
1/30 木 7:00pm
1/31 金 7:00pm

音の魔術師のタクトが紡ぎだす 東欧の情緒に身をゆだねる

ムソルグスキー（リャードフ編）／
　歌劇「ソロチンスクの市」―「序曲」「ゴパック」
バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ヴァイオリン：郷古 廉（N響第1コンサートマスター）

©Marco Borggreve

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025
02 February
第2032回
2/13 木 7:00pm
2/14 金 7:00pm

世界の音楽界が熱視線を注ぐ 若き巨匠によるドイツ・プログラム

モーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583*、
　アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、
　交響曲 第25番 ト短調 K. 183、レチタティーヴォと
　アリア「私のうるわしい恋人よ、さようなら
　―とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528*
シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

指揮：ペトル・ポペルカ　メゾ・ソプラノ：エマ・ニコロフスカ*

©Kyrill Gabriel

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Spring

2025
04 April
第2035回
4/17 木 7:00pm
4/18 金 7:00pm

《春の祭典》に続きパーヴォ&N響が贈る ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」
（全曲／1947年版）
ブリテン／ピアノ協奏曲 作品13
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」
作品33bis

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ　ピアノ：ベンジャミン・グローヴナー

©Kaupo Kikkas

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025
05 May
第2037回
5/1 木 7:00pm
5/2 金 7:00pm

軋みあう"生と死"を超克し その彼方の光へ

マーラー・フェスティバル2025 演奏曲（マーラーのみ）

ベルク／ヴァイオリン協奏曲
マーラー／交響曲 第4番 ト長調*

指揮：ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン：諏訪内晶子
ソプラノ：森 麻季*

©NHKSO

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025
06 June
第2040回
6/12 木 7:00pm
6/13 金 7:00pm

チェリビダッケの直弟子 メナのブルックナー《第6番》

イベール／フルート協奏曲
ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調

指揮：フアンホ・メナ
フルート：カール・ハインツ・シュッツ

©Michal Novak

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

（以上、すべて税込）

年間会員券（9回）						
	一般	S ¥91,800	A ¥76,500	B ¥61,200	C ¥49,725	D ¥42,075
	ユースチケット	S ¥45,900	A ¥38,250	B ¥30,600	C ¥24,858	D ¥21,033

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

2024–25シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

多彩なマエストロ、
ソリストたちが屈指の名曲でその個性を輝かせる。
2時間のフル・プログラムで、交響曲と舞台音楽の“粋”を聴く。

NHKホール | 金 7:00pm 土 2:00pm

※ 本シーズンより「休憩あり・2時間程度」の公演とさせていただきます。
※金曜日の開演時刻を7:00pmに変更させていただきます（土曜日は従来通り2:00pm開演）。

Autumn

2024
09 September
第2018回
9/27 金 7:00pm
9/28 土 2:00pm

英国で評判の《白鳥の湖》を尾高忠明がN響で初披露

チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲
作品33（フィッツェンハーゲン版）★
チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」
作品20（抜粋）

指揮：尾高忠明
チェロ：辻本 玲（N響首席チェロ奏者）★

© Martin Richardson

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2024
10 October
第2021回
10/25 金 7:00pm
10/26 土 2:00pm

ブロムシュテットに導かれて挑む
シューベルト最高峰の交響曲2作

シューベルト／交響曲 第7番 ロ短調 D. 759「未完成」
シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944
「ザ・グレート」

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット

© Martin Longmann

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2024
11 November
第2023回
11/15 金 7:00pm
11/16 土 2:00pm

世界を席巻するオロスコ・エストラーダ
満を持してN響初登場

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲
ヴァインベルク／トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94
ショスタコーヴィチ／交響曲 第5番 ニ短調 作品47

指揮：アンドレス・オロスコ・エストラーダ
トランペット：ラインホルト・フリードリヒ

© Martin Sigmund

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Winter

2024
12 December
第2027回
12/13 金 7:00pm
12/14 土 2:00pm

《一千人の交響曲》に続く
ルイージ&N響の『ファウスト』シリーズ

リスト／交響詩「タッソー」
リスト／ファウスト交響曲★

指揮：ファビオ・ルイージ
テノール：ジェームズ・マッコークル★
男声合唱：東京オペラシンガーズ★

© Yasuke Myazaki (SEPT)

一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2025
01 January
第2029回
1/24 金 7:00pm
1/25 土 2:00pm

世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神

ストラヴィンスキー／組曲「プルチネッラ」
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:トゥガン・ソヒエフ

©Marco Borggreve

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025
02 February
第2033回
2/21 金 7:00pm
2/22 土 2:00pm

下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界

スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲
サン・サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 ロ短調 作品61
スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲
オッフェンバック(ロザンタール編)／バレエ音楽「パリの喜び」(抜粋)

指揮:下野竜也　ヴァイオリン:三浦文彰

©Kaoya Yamaguchi

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2025
04 April

4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます

2025
05 May
第2038回
5/30 金 7:00pm
5/31 土 2:00pm

オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス!
N響定期初登場、藤田真央にも注目!

シューベルト／「ロザムンデ」序曲
ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*
R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲
R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲

指揮:ギエドレ・シュレキーテ
ピアノ:藤田真央*

© Theresa Pewal

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2025
06 June
第2041回
6/20 金 7:00pm
6/21 土 2:00pm

2000年生まれの超新星 ペルトコスキのマーラー《巨人》

コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
マーラー／交響曲 第1番 ニ長調「巨人」

指揮:タルモ・ペルトコスキ
ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ

©Peter Rigaud

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(8回)	一般	S ¥68,000	A ¥57,800	B ¥44,200	C ¥36,720	D ¥29,240
	ユースチケット	S ¥34,000	A ¥27,200	B ¥21,080	C ¥17,336	D ¥10,200

※2025年5月のヨーロッパ公演実施にともない、2025年4月公演を休止するため、本シーズンは全8回となります。

シーズン会員券(Autumn / Winter)(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029
シーズン会員券(Spring)(2回)	一般	S ¥17,900	A ¥15,216	B ¥11,636	C ¥9,666	D ¥7,698
	ユースチケット	S ¥8,950	A ¥7,160	B ¥5,550	C ¥4,566	D ¥2,686

チケットのご案内(定期公演 2024年9月〜2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10〜44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行)／2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行)／2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行)／2025年2月19日[水](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回) Cプログラム[Autumn/Winter](3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring](2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S〜D)に拡大しました。
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行)／2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行)／2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行)／2025年3月2日[日](一般)

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。
詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく!

対象年齢を拡大
2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大します

定期会員券の対象席種を拡大
「S席〜D席の全席種」に拡大します

お申し込み
WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am〜5:00pm/**定休日**:土・日・祝日
●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

特別公演

7/12㊎ 7:00pm ｜ N響「夏」2024

NHKホール

指揮:グスターボ・ヒメノ　ヴァイオリン:ノア・ベンディックス・バルグリー
シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47
ベートーヴェン／交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」

料金(税込):一般 ｜ S席7,300円　A席5,300円　B席3,300円　C席2,100円
ユースチケット(29歳以下) ｜ S席3,600円　A席2,600円　B席1,600円　C席1,000円
※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売中

主催:NHK／NHK交響楽団　協賛:岩谷産業株式会社

7/27㊏ 3:30pm ｜ 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHKホール

指揮:クリスティーナ・ポスカ　ピアノ:アレクサンドラ・ドヴガン　ナビゲーター:厚切りジェイソン
[世界ぐるっと名曲の旅]
ジョン・ウィリアムズ／オリンピック・スピリット(アメリカ)
エッレル／マイ・ホームランド(エストニア)
ブリテン／青少年のための管弦楽入門(イギリス)
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16―第1楽章(ノルウェー)
J. シュトラウスI世／ラデツキー行進曲 作品228(オーストリア)
マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲(イタリア)
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番― 「ファランドール」(フランス)

料金(税込):一般 ｜ S席5,200円　A席4,200円　B席3,000円　C席1,500円
ユースチケット(29歳以下) ｜ S席4,000円　A席3,000円　B席2,000円　C席1,000円
小・中学生 ｜ S席2,000円　A席1,500円　B席1,000円　C席500円
※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売中

主催:NHK／NHK交響楽団　協賛:株式会社NTTドコモ　協力:株式会社グローバル／グローバル管楽器技術学院

9/5(木) 7:00pm ｜ N響ウェルカム･コンサート

NHKホール

指揮:下野竜也　チェロ:辻本 玲(N響首席チェロ奏者)★　ナビゲーター:大林奈津子

スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲から(2月Cプログラム)
ドビュッシー／「イベリア」―「祭りの朝」(11月Aプログラム)
シューマン／交響曲 第1番「春」―第2楽章(2月Bプログラム)
マーラー／交響曲 第1番「巨人」―第2楽章から (6月Cプログラム)
チャイコフスキー／「ロココ風の主題による変奏曲」―第6、第7変奏★(9月Cプログラム)
プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」結婚組曲―「結婚の歌」(11月Bプログラム)
ブラームス／交響曲 第4番―第3楽章(10月Aプログラム)
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」―「バーバ・ヤガーの小屋」「キエフの大門」(12月Bプログラム)

料金(税込):一般1,800円／定期会員1,200円／ユースチケット(29歳以下)500円／
ウェルカム・ペアチケット(2枚1組)2,000円

チケット発売中

主催:NHK／NHK交響楽団

9/9(月) 7:00pm ｜ 明電舎 presents N響名曲コンサート 2024

サントリーホール

指揮:パスカル・ロフェ　ピアノ:ジョナタン・フルネル

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲 ニ長調
フォーレ／組曲「ペレアスとメリザンド」作品80
ドビュッシー／交響詩「海」

料金(税込):一般｜SS席8,500円　S席6,500円　A席5,000円　B席3,500円　C席2,500円
ユースチケット(29歳以下)｜SS席4,200円　S席3,200円　A席2,500円　B席1,700円　C席1,200円
※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売中

主催:NHK交響楽団　特別協賛:株式会社明電舎

お申し込み

WEBチケットN響　https://nhkso.pia.jp

N響ガイド｜TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am～5:00pm
定休日:土･日･祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
●発売初日の土･日･祝日は10:00am～3:00pmの営業
●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

6/23㊐2:00pm｜鈴木優人×イザベル・ファウスト NHK交響楽団 in Chofu

調布市グリーンホール 大ホール

指揮:鈴木優人　ヴァイオリン:イザベル・ファウスト
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
バッハ(ウェーベルン編)／リチェルカータ
シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

主催:(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団／調布市　お問合せ:チケットCHOFU TEL (042) 481-7222

6/29㊏4:00pm｜井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音

サントリーホール

指揮:井上道義　ヴァイオリン:服部百音
ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77
ロッシーニ／歌劇「ブルスキーノ氏」序曲
ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 嬰ハ短調 作品129

主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

6/30㊐4:00pm｜井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音

フェスティバルホール

出演者・曲目は6月29日と同じ

主催:サンライズプロモーション東京　お問合せ:キョードーインフォメーション TEL (0570) 200-888

7/7㊐3:00pm｜NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

指揮:秋山和慶　ピアノ:アレクサンダー・ガジェヴ
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)
お問合せ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL (024) 934-2288

7/14㊐6:00pm｜第26回 NHK交響楽団松山定期演奏会

愛媛県県民文化会館 メインホール

指揮:グスターボ・ヒメノ　ヴァイオリン:ノア・ベンディックス・バルグリー
シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47
ベートーヴェン／交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」

主催:NHK松山放送局／愛媛新聞社／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

7/16㊋7:00pm｜東広島市制施行50周年記念事業 NHK交響楽団 東広島特別演奏会

東広島市芸術文化ホールくらら 大ホール

出演者・曲目は7月14日と同じ

主催:東広島芸術文化ホール指定管理者　お問合せ:東広島芸術文化ホールくらら チケットセンター　TEL (082)426-5990

7/21㊐5:00pm｜NHK交響楽団演奏会 富山公演

富山県民会館 ホール

指揮:クリスティーナ・ポスカ　ヴァイオリン:荒井里桜
モーツァルト／歌劇「イドメネオ」バレエ音楽 K. 367―「シャコンヌ」「パ・スール」
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:(公財)富山県文化振興財団 富山県民会館
お問合せ:富山県民会館 TEL (076)432-3115(平日 9時～17時)、(076)432-3111(平日 17時以降、土日祝)

7/30㊋7:00pm｜N響ほっとコンサート in 鳥取

とりぎん文化会館 梨花ホール

指揮:クリスティーナ・ポスカ　ピアノ:アレクサンドラ・ドヴガン
ジョン・ウィリアムズ／オリンピック・スピリット(アメリカ)
エッレル／マイ・ホームランド(エストニア)
ブリテン／青少年のための管弦楽入門(イギリス)
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16(ノルウェー)
J. シュトラウスⅠ世／ラデツキー行進曲 作品228(オーストリア)
マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲(イタリア)
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番―「ファランドール」(フランス)

主催:(公財)鳥取県文化振興財団　お問合せ:とりぎん文化会館　TEL (0857) 21-8700

8/4㊐4:00pm｜フェスタ サマーミューザ KAWASAKI 2024

ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮:沼尻竜典　ヴァイオリン:戸田弥生
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77
ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25

主催:川崎市／ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)　お問合せ:ミューザ川崎シンフォニーホール　TEL (044) 520-0200

8/30金 6:30pm｜［福島市音楽堂開館40周年記念事業］NHK交響楽団

ふくしん夢の音楽堂 大ホール

指揮:下野竜也　ピアノ:横山幸雄
ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11
ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

主催:（公財）福島市振興公社　お問合せ:ふくしん夢の音楽堂 TEL (024) 531-6221

8/31土 3:00pm｜ NHK交響楽団 山形特別公演

やまぎん県民ホール（山形県総合文化芸術館） 大ホール

出演者・曲目は8月30日と同じ

主催:YTS山形テレビ／キョードー東北　お問合せ:キョードー東北 TEL (022) 217-7788

9/1日 5:00pm｜ NHK交響楽団 秋田特別公演

あきた芸術劇場ミルハス 大ホール

出演者・曲目は8月30日と同じ

主催:キョードー東北　お問合せ:キョードー東北 TEL (022) 217-7788

9/22日 3:00pm｜第26回 NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ（足利市民プラザ）・文化ホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:エレーヌ・グリモー
シューベルト／イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591
シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:（公財）足利市みどりと文化スポーツ財団　お問合せ:あしかがフラワーパークプラザ（足利市民プラザ） TEL (0284) 72-8511

9/23月休 2:00pm｜ NHK交響楽団演奏会 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

出演者・曲目は9月22日と同じ

主催:高崎芸術劇場（〔公財〕高崎財団）　お問合せ:高崎芸術劇場チケットセンター TEL (027) 321-3900

10/5土 4:00pm｜小山実稚恵 サントリーホール・シリーズ Concerto〈以心伝心〉2024

サントリーホール

指揮:広上淳一　ピアノ:小山実稚恵
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595
ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 作品15

主催:サントリーホール／AMATI　お問合せ:サントリーホールチケットセンター TEL (0570) 55-0017／AMATI TEL (03) 3560-3010

10/6日 2:00pm ｜ N響ベストクラシックス 広上淳一×小山実稚恵×N響

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:広上淳一　ピアノ:小山実稚恵
モーツァルト／交響曲 第32番 ト長調 K. 318
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595
ハイドン／交響曲 第101番 ニ長調 Hob. I-101「時計」

主催:葛飾区文化施設指定管理者　お問合せ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL (03) 5670-2233

10/14月祝 4:00pm ｜ オーケストラ・キャラバン NHK交響楽団 富士特別公演

富士市文化会館ロゼシアター

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ　ピアノ:高木竜馬
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23
チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

主催:公益社団法人日本オーケストラ連盟／NHK交響楽団　お問合せ:NHKエンタープライズ中部 TEL (052) 952-7381

10/30水 7:00pm ｜ NHK音楽祭2024

NHKホール

指揮:シャルル・デュトワ　ピアノ:ニコライ・ルガンスキー
ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

主催:NHK／NHKプロモーション　共催:NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

7/6土 3:30pm

出演者・曲目は7月7日と同じ

主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL (03)3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督：シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀
第1コンサートマスター：郷古 廉
ゲスト・コンサートマスター：川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉冨亮太
後藤 康
小林玉紀
髙井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也
山田慶一
横山俊朗
米田有花

飯塚歩夢
東條太河

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小畠茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
＃御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洸一
宮坂拡志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
＃山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

（五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、＃インスペクター）

特別支援・特別協力・賛助会員
Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長｜間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長｜中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取｜加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長｜小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長｜喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長｜澁谷直樹

特別協力

BMWジャパン	代表取締役社長｜長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長｜井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長｜山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長｜矢内 廣

賛助会員

- 常陸宮
- ㈱アートレイ
  代表取締役｜小森活美
- 相川直樹
- ㈱アイシン
  取締役社長｜吉田守孝
- ㈱アインホールディングス
  代表取締役社長｜大谷喜一
- 葵設備工事㈱
  代表取締役社長｜安藤正明
- ㈱あ佳音
  代表取締役社長｜遠山信之
- AXLBIT㈱
  代表取締役｜長谷川章博
- アサヒグループホールディングス㈱
  代表取締役社長兼CEO｜勝木敦志
- ㈱朝日工業社
  代表取締役社長｜髙須康有
- 朝日信用金庫
  理事長｜伊藤康博
- 有限責任 あずさ監査法人
  理事長｜山田裕行
- アットホーム㈱
  代表取締役社長｜鶴森康史
- イーソリューションズ㈱
  代表取締役社長｜佐々木経世
- EY新日本有限責任監査法人
  理事長｜片倉正美
- ㈱井口一世
  代表取締役｜井口一世
- 池上通信機㈱
  代表取締役社長｜清森洋祐
- ㈠財ITOH
  代表理事｜伊東忠俊
- 井村屋グループ㈱
  代表取締役会長(CEO)｜中島伸子
- ㈲IL VIOLINO MAGICO
  代表取締役｜山下智之
- ㈱インターネットイニシアティブ
  代表取締役会長｜鈴木幸一
- 内 聖美
- SMBC日興証券㈱
  代表取締役社長｜吉岡秀二
- SCSK㈱
  代表取締役 執行役員 社長｜當麻隆昭
- ㈱NHKアート
  代表取締役社長｜平田恭佐
- NHK営業サービス㈱
  代表取締役社長｜長村 中
- ㈱NHKエデュケーショナル
  代表取締役社長｜荒木美弥子
- ㈱NHKエンタープライズ
  代表取締役社長｜有吉伸人
- ㈻NHK学園
  理事長｜等々力 健
- ㈱NHKグローバルメディアサービス
  代表取締役｜馬場広大
- ㈱NHK出版
  代表取締役社長｜松本浩司
- ㈱NHKテクノロジーズ
  代表取締役社長｜野口周一
- ㈱NHKビジネスクリエイト
  代表取締役社長｜石原 勉

・㈱NHKプロモーション
代表取締役社長｜有吉伸人

・㈱NTTドコモ
代表取締役社長｜井伊基之

・㈱NTTファシリティーズ
代表取締役社長｜松原和彦

・ENEOSホールディングス㈱

・荏原冷熱システム㈱
代表取締役｜加藤恭一

・MNインターファッション㈱
代表取締役社長｜吉本一心

・㈱エレトク
代表取締役｜間部惠造

・大崎電気工業㈱
代表取締役会長｜渡辺佳英

・大塚ホールディングス㈱
代表取締役社長兼CEO｜樋口達夫

・㈱大林組
代表取締役社長｜蓮輪賢治

・オールニッポンヘリコプター㈱
代表取締役社長｜柳川 淳

・岡崎悦子

・岡崎耕治

・小田急電鉄㈱
取締役社長｜鈴木 滋

・陰山建設㈱
代表取締役｜陰山正弘

・カシオ計算機㈱
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一

・鹿島建設㈱
代表取締役社長｜天野裕正

・㈱加藤電気工業所
代表取締役｜加藤浩章

・㈱金子製作所
代表取締役｜金子晴房

・カルチュア・エンタテインメント㈱
代表取締役 社長執行役員｜中西一雄

・㈱関電工
取締役社長｜仲摩俊男

・㈱かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長｜谷垣邦夫

・キッコーマン㈱
代表取締役社長CEO｜中野祥三郎

・㈱CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役｜黒川幸太郎

・㈱教育芸術社
代表取締役｜市川かおり

・㈱共栄サービス
代表取締役｜半田 充

・㈱共同通信会館
代表取締役専務｜梅野 修

・㈱共同通信社
社長｜水谷 亨

・キリンホールディングス㈱
代表取締役会長CEO｜磯崎功典

・㈻国立音楽大学
理事長｜重盛次正

・京王電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史

・京成電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也

・KDDI㈱
代表取締役社長｜髙橋 誠

・㈿社団 恒仁会
理事長｜伊藤恒道

・㈱構造計画研究所
代表執行役社長｜渡邊太門

・㈱コーポレイトディレクション
代表取締役｜小川達大

・小林弘侑

・佐川印刷㈱
代表取締役会長｜木下宗昭

・佐藤弘康

・サフラン電機㈱
代表取締役｜藤崎貴之

・㈱サンセイ
代表取締役｜冨田佳佑

・サントリーホールディングス㈱
代表取締役社長｜新浪剛史

・㈱ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役｜佐藤雅典

・JCOM㈱
代表取締役社長｜岩木陽一

・㈱シグマクシス・ホールディングス
取締役会長兼取締役会議長｜富村隆一

・㈱ジャパン・アーツ
代表取締役社長｜二瓶純一

・㈱集英社
代表取締役社長｜廣野眞一

・㈱小学館
代表取締役社長｜相賀信宏

・㈱商工組合中央金庫
代表取締役社長｜関根正裕

・庄司勇次朗・惠子

・ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱

・㈱白川プロ
代表取締役｜白川亜弥

・㈲新赤坂健康管理協会
代表取締役社長｜小池 学

・信越化学工業㈱
代表取締役社長｜斉藤恭彦

・新菱冷熱工業㈱
代表取締役社長｜加賀美 猛

・㈱スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長｜米倉英一

・㈱菅原
代表取締役 会長兼社長｜古江訓雄

・スズキ㈱
代表取締役社長｜鈴木俊宏

・住友商事㈱
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之

・住友電気工業㈱
社長｜井上 治

・セイコーグループ㈱
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO｜服部真二

・聖徳大学
理事長・学長｜川並弘純

・西武鉄道㈱
代表取締役社長｜小川周一郎

・清和綜合建物㈱
代表取締役社長｜大串桂一郎

・関彰商事㈱
代表取締役会長｜関 正夫

・㈱セノン
代表取締役｜稲葉 誠

・㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO｜村松俊亮

・損害保険ジャパン㈱
代表取締役社長｜石川耕治

・第一三共㈱
代表取締役会長兼CEO｜眞鍋 淳

・第一生命保険㈱
代表取締役社長｜隅野俊亮

・ダイキン工業㈱
取締役社長｜十河政則

・大成建設㈱
代表取締役社長｜相川善郎

・大日コーポレーション㈱
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明

・高砂熱学工業㈱
代表取締役社長｜小島和人

・㈱ダク
代表取締役｜福田浩二

・㈱竹中工務店
取締役執行役員社長｜佐々木正人

・田中貴金属工業㈱
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗

・田原 昇

・チャンネル銀河㈱
代表取締役社長｜前田鎮男

・中央日本土地建物グループ㈱
代表取締役社長｜三宅 潔

・中外製薬㈱
代表取締役社長｜奥田 修

・テルウェル東日本㈱
代表取締役社長｜石川 達

・㈱電通
代表取締役 社長執行役員｜佐野 傑

・㈱テンポプリモ
代表取締役｜中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱
代表取締役会長｜石田建昭

・東海旅客鉄道㈱
代表取締役社長｜丹羽俊介

・東急㈱
取締役社長 社長執行役員｜堀江正博

・㈱東急コミュニティー
代表取締役社長｜木村昌平

・㈱東急文化村
代表取締役｜嶋田 創

・東京海上日動火災保険㈱
取締役社長｜城田宏明

・㈱東京交通会館
取締役社長｜興野敦郎

・東信地所㈱
代表取締役｜堀川利通

・東武鉄道㈱
取締役社長｜都筑 豊

・桐朋学園大学
学長｜辰巳明子

・東邦ホールディングス㈱
代表取締役｜有働 敦

・㈱東北新社
代表取締役社長｜小坂恵一

・鳥取末広座㈱
代表取締役｜西川八重子

・㈶凸版印刷三幸会
代表理事｜金子眞吾

・トヨタ自動車㈱
代表取締役社長｜佐藤恒治

・内外施設工業グループホールディングス㈱
代表取締役社長｜林 克昌

・中銀グループ
代表｜渡辺蔵人

・中本光子

・日興アセットマネジメント㈱
会長｜西田 豊

・日鉄興和不動産㈱
代表取締役社長｜三輪正浩

・日東紡績㈱
取締役 代表執行役会長｜辻 裕一

・㈱日本アーティスト
代表取締役｜幡野菜穂子

・日本ガイシ㈱
取締役社長｜小林 茂

・㈱日本カストディ銀行
代表取締役社長｜土屋正裕

・㈱日本国際放送
代表取締役社長｜髙尾 潤

・日本たばこ産業㈱
代表取締役社長｜寺畠正道

・日本通運㈱
代表取締役社長｜竹添進二郎

・日本電気㈱
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之

・㈶日本放送協会共済会
理事長｜谷弘聡史

・日本みらいホールディングス㈱
代表取締役｜安嶋 明

・日本郵政㈱
取締役兼代表執行役社長｜増田寛也

・㈱ニフコ
取締役会長｜山本利行

・野田浩一

・野村ホールディングス㈱
代表執行役社長｜奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス㈱
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規

・㈱原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役｜原田武夫

・㈲パルフェ
代表取締役｜伊藤良彦

・ぴあ㈱
代表取締役社長｜矢内 廣

・㈱日立製作所
執行役社長｜小島啓二

・㈱フォトロン
代表取締役｜瀧水 隆

・福田三千男

・富士通㈱
代表取締役社長｜時田隆仁

・富士通フロンテック㈱
代表取締役社長｜渡部広史

・古川建築音響研究所
所長｜古川宣一

・ペプチドリーム㈱
代表取締役社長CEO｜リード・パトリック

・㈱朋栄ホールディングス
代表取締役｜清原克明

・㈱放送衛星システム
代表取締役社長｜角 英夫

・㈶放送文化基金
理事長｜濱田純一

・ホクト㈱
代表取締役社長｜水野雅義

・㈱ポケモン
代表取締役社長｜石原恒和

・前田工織㈱
代表取締役社長兼COO｜前田尚宏

・牧 寛之

・町田優子

・丸紅㈱
代表取締役社長｜柿木真澄

・溝江建設㈱
代表取締役社長｜溝江 弘

・三井住友海上火災保険㈱
代表取締役｜舩曳真一郎

・㈱三井住友銀行
頭取｜福留朗裕

・三井住友信託銀行㈱
取締役社長｜大山一也

・三菱商事㈱
代表取締役社長｜中西勝也

・三菱電機㈱
執行役社長｜漆間 啓

・㈱緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長｜永田周太郎

・三橋産業㈱
代表取締役会長｜三橋洋之

・三原穂積

・㈱ミロク情報サービス
代表取締役社長｜是枝周樹

・㈻武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長｜福井直敬

・㈱明治
代表取締役社長｜松田克也

・㈱明電舎
代表取締役 執行役員社長｜井上晃夫

・メットライフ生命保険㈱
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン

・㈱目の眼
社主｜櫻井 恵

・㈱モメンタム ジャパン
代表取締役社長｜三溝広志

・森ビル㈱
代表取締役社長｜辻 慎吾

・森平舞台機構㈱
代表取締役｜森 健輔

・矢下茂雄

・山田産業㈱
代表取締役｜山田裕幸

・㈱ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長｜松岡祐治

・ユニオンツール㈱
代表取締役会長｜片山貴雄

・米澤文彦

・㈱読売広告社
代表取締役社長｜菊地英之

・㈱読売旅行
代表取締役社長｜貞広貴志

・リコージャパン㈱
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹

・料亭 三長
代表｜髙橋千善

・㈱リンレイ
代表取締役社長｜鈴木信也

・㈲ルナ・エンタープライズ
代表取締役｜戸張誠二

・ローム㈱
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功

・YKアクロス㈱
代表取締役社長｜田渕浩記

・YCC㈱
社長｜中山武之

・渡辺敦郎・優子

（五十音順、敬称略）

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. **会費**：一口50万円（年間）
2. **期間**：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. **入会の特典**：『フィルハーモニー』、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
   N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。
当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ	公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」	TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

小室敬幸（こむろ たかゆき）
音楽ライター。東京音楽大学付属高等学校および同大学で作曲を、同大学院で音楽学を専攻。クラシックやジャズ、映画音楽を中心に楽曲解説の寄稿やインタビュー取材、ラジオ出演など幅広く活動。共著書に『聴かずぎらいのための吹奏楽入門』『コモンズ：スコラ vol. 18 ピアノへの旅』など。

神保夏子（じんぼう なつこ）
日本学術振興会特別研究員RPD。立教大学、国立音楽大学、桐朋学園大学非常勤講師。博士（音楽学）。専門分野は近代フランス音楽史、演奏文化史。著書に『マルグリット・ロン――近代フランス音楽を創ったピアニスト』、共著書に『コンクール文化論――競技としての芸術・表現活動を問う』、共訳書にカンタン・メイヤスー『亡霊のジレンマ――思弁的唯物論の展開』など。

沼野雄司（ぬまの ゆうじ）
桐朋学園大学音楽学部教授。博士（音楽学）。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。著書に『トーキョー・シンコペーション　音楽表現の現在』『音楽学への招待』『現代音楽史――闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ――孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ――前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

（五十音順、敬称略）

Information

訃報

当団元トロンボーン奏者（1950年9月入団）で団友の関根五郎（せきね ごろう）氏が、2024年3月11日に逝去されました。享年96。ここに謹んで哀悼の意を表します。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP 1

スマートフォンで右の
2次元コードを読み取る。
またはURLを入力
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

STEP 2

開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP 3

アンケートに答えて（約5分）、
「送信」を押して完了！

キリトリ

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。
定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki
First Concertmaster: Sunao Goko
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

Shirabe Aoki
Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
○ Hiroyuki Matsuda
Nana Miyagawa
Ryuto Murao
○ Tsutomu Yamagishi
○ Masamichi Yokoshima
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
○ Haruhiko Mimata
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

Ayumu Iizuka
Taiga Tojo

Violas

◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
♯ Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu
Yuji Yamada

Cellos

◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
♯ Takashi Yamane

Bassoons

◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Yuki Sato
Keiko Sugawara
Itaru Morita

Horns

◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

◎ Toru Uematsu
◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎Principal, ☆Acting Principal, ○Vice Principal, □Acting Vice Principal, ♯ Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.2013
NHK Hall

June
8(Sat) **6:00pm**
9(Sun) **2:00pm**

conductor	Keitaro Harada
piano	Kyohei Sorita
concertmaster	Sunao Goko

Alexander Scriabin
***Rêverie*, Op. 24**[4′]

Alexander Scriabin
Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20[29′]
I Allegro
II Andante
III Allegro moderato

— intermission (20 minutes) —

Alexander Scriabin
Symphony No. 2 C Minor Op. 29
[48′]
I Andante
II Allegro
III Andante
IV Tempestoso
V Maestoso

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Keitaro Harada, conductor

Keitaro Harada is a highly talented up-and-coming conductor appearing in Europe, America and Asia. He was born in Tokyo in 1985, and studied conducting under Frederick Fennell at the Interlochen Arts Academy. In 2006, at the age of twenty-one, he made his debut by conducting the Moscow Symphony Orchestra. After that, he received training from Lorin Maazel, and participated in the Tanglewood Music Festival as well as the Pacific Music Festival in Sapporo. He has served as Associate Conductor of the Cincinnati Symphony Orchestra, the Cincinnati Pops Orchestra, the Arizona Opera, and the Richmond Symphony Orchestra, and in the 2020 season, he became Music and Artistic Director of the Savannah Philharmonic in Georgia, USA. At home, he has also worked with many orchestras, and is now Permanent Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra from April 2021, and

Principal Guest Conductor and Artistic Partner of the Aichi Chamber Orchestra from April 2024. He is also actively conducting operatic works at home and abroad, and has won many awards, including the Sir Georg Solti Conductor Award (as the first Japanese recipient), the Akeo Watanabe Music Foundation Music Award and the Hideo Saito Memorial Fund Award.

Since he first conducted the NHK Symphony Orchestra in August 2019, he has returned to the orchestra's podium frequently. This is his first appearance to conduct the orchestra's subscription concert since January 2022. Much attention will be focused on how Keitaro Harada, a conductor producing fresh and vigorous music with an unconventional approach, will be delivering the charm of Scriabin's works, which are rarely performed.

A

8 & 9. JUNE. 2024

Kyohei Sorita, piano

Kyohei Sorita is the recipient of 2nd prize of the 18th International Chopin Piano Competition in 2021, the highest prize ever awarded to a Japanese.

He released his debut CD in 2015, and in the following year, held his debut recital at Suntory Hall to a packed audience. Since then, he has expanded his repertoire of piano solo and concertos from classical to modern times, and made his debut at Salle Cortot in Paris and at the Musikverein in Vienna in 2020, thus has been building up his career both at home and abroad. The orchestras he has worked with to date include the Russian National Orchestra, the Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, the Warsaw National Philharmonic Orchestra, the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra and the New Japan Philharmonic, to name a few.

Kyohei Sorita studied piano at the Moscow Tchaikovsky Conservatory and the Fryderyk Chopin University of Music in Warsaw, and conducting in Vienna. In recent years, he focuses on conducting and often plays piano while conducting from the keyboard. As a man of his word, he established his own record label in 2019, and a corporation to operate an orchestra in 2021, for the purpose of providing young professional musicians with opportunities to perform in public.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra after a two-year absence, his last appearance being in a January subscription concert in 2022. I expect he will present the audience Scriabin's early concerto, written at the end of the 19th century, with a performance rich in subtle colors and tones.

[Keitaro Harada by Katsuhiko Shibata, music critic, Kyohei Sorita by Arisa Iida, music facilitator]

Alexander Scriabin (1872–1915)

Rêverie, Op. 24

Russian composer-pianist Scriabin is often contrasted with his former schoolmate Rachmaninov (1873–1943) one year his junior. The two friends had indeed opposite aesthetics and styles in composition: Rachmaninov's reliance in the 19th-century Romantic idioms was unswerving during his long life, whilst Scriabin parted from the traditional tonal language through his radical harmonic device called "mystic chord(s)" coupled with his mysticism and synesthesia (musical notes and keys made him see certain colors). Today's concert program looks back at Scriabin's early years prior to this epochal step forward for music history, although his highly personal approach will have virtually no successor after his sudden death at age 43.

Rêverie (1898) is the first purely orchestral work actually completed by young Scriabin who had, up until then, only finished piano solo pieces and a piano concerto (discussed below). He adopted this dreamy French title and its Russian translation *mechty* (*daydreams*) taking the advice of his publisher and patron Belyayev. A member of the advisory board of Belyayev's publishing firm, Rimsky-Korsakov (1844–1908) conducted the highly-praised first performance in December 1898, to Scriabin's delight. This brief, beautifully elaborate gem is in A–B–A form. The opening section A introduces the meandering main theme on a clarinet and then the sub-theme on an oboe, followed by the brighter animated section B developing the sub-theme. After the section A returns, an effective whole pause leads to a calm coda based on the main theme.

Alexander Scriabin

Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20

Scriabin was proud that his birthday fell on the Russian orthodox Christmas day. Before he could talk and walk, the only child lost his mother who was an excellent pianist. Because his father was working overseas, Scriabin was brought up – and doted on – by his music-loving aunt, grandmother and great-aunt. The musically gifted boy was educated by the illustrious piano teacher Zverev before studying at the Moscow Conservatory until 1892. A composer and phenomenal improviser as well, young Scriabin wrote many piano solo pieces of which the titles – nocturne, polonaise, mazurka and so forth – evoke his idol Chopin. Following his 1896 European debut as a rising composer-pianist, Scriabin completed the Piano Concerto (1897), his first piece involving orchestra.

A characteristic of Scriabin's piano compositions is the virtuosic eloquence of the left hand part: while his right hand was injured by a horse carriage accident in 1885 and excessive practicing in 1891, Scriabin's left hand was greatly trained. The Piano Concerto opens with a F-sharp-minor sonata. The pianist enters in an improvisatory manner revealing the lyrical first theme, and later states the second theme reminding us of the Polish folk dance "mazurka." The next slow movement in F-sharp major lets the strings announce the theme, followed by the four contrasting variations and a coda. The F-sharp-minor finale, a rondo-sonata, has the heroic first theme recalling the Polish folk dance "polonaise" and the mellifluous second theme. The coda brings the Concerto to a passionate ending in F-sharp major.

Symphony No. 2 C Minor Op. 29

The above-mentioned *Rêverie* and Piano Concerto earned Scriabin a remarkable reputation, which spurred him on to a bigger-scale orchestral genre. In 1899–1900, the ambitious composer in his late twenties tackled his Symphony No. 1, a six-movement work requiring solo singers and a mixed chorus for the finale as if to tread the footsteps of Beethoven. It was first performed partly (without vocalists) in 1900 and entirely the next year. Scriabin was eager for his next symphony to include voices again. His publisher and patron Belyayev, however, was strongly opposed to the idea in mid-1900 on the grounds that the requirement for a number of singers contributed to the difficulties of making No. 1's performance happen readily and frequently. Completed in a short time in 1901, the Symphony No. 2 was turned into a purely instrumental piece.

No. 2 is cast in five movements. The first two and the last two are performed without pause. Thus it could be heard as a classical three-movement symphony, while it is unconventional with respect to the fact that the home keys of all the movements are different from each other. The central third movement (Andante, B major) famously gives a realistic depiction by letting a flute reenact a bird twittering. This axis is surrounded symmetrically by the rhythmically active second movement (Allegro, E-flat major) and the scherzo-style fourth movement (F minor) headed Tempestuoso (stormily). The dark first movement (Andante, C minor) and the elated march-like last movement (Maestoso [majestically], C major) seem to form a pronounced contrast: in fact, Scriabin provided them unity by utilizing the same melody for the principal themes introduced at the outset of the first movement (by a clarinet) and the finale (mainly by brass and timpani).

No. 2's premieres in St. Petersburg (1902) and Moscow (1903) caused complaints among conservative critics primarily due to the dissonances. Before long, the audacious composer would create three more symphonies far beyond the frame of a traditional symphony.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2015

Suntory Hall

June
19(Wed) **7:00pm**
20(Thu) **7:00pm**

conductor	Masato Suzuki
violin	Isabelle Faust
concertmaster	Naoya Nishimura◆

◆**Naoya Nishimura:** Naoya Nishimura was born in Nagoya. He started learning the violin at the age of four and graduated with honors from the Mannheim University of Music and Performing Arts. He has been invited to serve as a guest concertmaster by such orchestras as the Orchester de Paris and the Rotterdam Philharmonic Orchestra. After serving as 1st concertmaster of the Symphoniker Hamburg, he is presently the 1st concertmaster of the Philharmonische Staatsorchester Mainz.

Anton Webern
Passacaglia Op. 1 [11′]

Arnold Schönberg
Violin Concerto Op. 36 [32′]
I Poco Allegro
II Andante grazioso
III Allegro

— **intermission** (20 minutes) —

Johann Sebastian Bach / Anton Webern
Ricercata [8′]

Franz Schubert
Symphony No. 5 B-flat Major D. 485 [29′]
I Allegro
II Andante con moto
III Menuetto: Allegro molto
IV Allegro vivace

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Masato Suzuki, conductor

After graduating from the Tokyo University of the Arts and its graduate school, Masato Suzuki completed the master's course of the Royal Conservatory of The Hague in the Netherlands. His activities as conductor, composer, pianist, harpsichordist, and organist are truly remarkable. In addition, he is the executive producer of the Chofu International Music Festival, and is also popularly known to public as

the guide to NHK-FM's program titled The Joy of Early Music. As Music Director of Ensemble Genesis, he takes up a wide variety of works from various eras performing with period instruments, he also serves as Principal Conductor of the Bach Collegium Japan, Conductor/ Creative Partner of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, and Principal Guest Conductor of Kansai Philharmonic Orchestra. With his flexible approach to works of any kind, he has made remarkable achievements in both period instruments ensembles and modern orchestras.

It was the December subscription concert of 2019 when he made his debut with the NHK Symphony Orchestra, however, he has established a good rapport with the orchestra through prior engagements as an organ soloist in November 2018 and May 2019. The June subscription concert program he conducts includes Webern's early romantic work, a concerto using the twelve-tone technique by Schönberg, Webern's tutor, an orchestration of Great Bach's work arranged by Webern and a symphony by Schubert. Thus, it is made highly interesting, with all works related to Vienna but from different eras, and of different composition styles. It certainly arouses audience expectation.

B

19 & 20. JUNE. 2024

Isabelle Faust, violin

©Marco Borggreve

Is there any other violinist who is more dedicated to music than Isabelle Faust is? What makes her great is that while demonstrating her vivid technique in her performances of unaccompanied pieces including dance pieces, New Viennese School works, and exquisite modern and contemporary works, she has a philosophy to pursue and highlight the background and message conveyed by the music she performs.

Isabelle Faust, one of the greatest artists of our time, who opens up the creative horizon with the dignified and yet beautiful sounds she produces, will return to the NHK Symphony Orchestra for the first time since February 2021 when she performed Szymanowski's 1st Violin Concerto (conducted by Masaru Kumakura). Isabelle Faust studied with the renowned violinists Christoph Poppen and Dénes Zsigmondy, and won the 1st International Violin Competition Leopold Mozart (Augsburg) in 1987, the International Violin Competition "Premio Paganini" (Genova) in 1993, and jumped into the spotlight. However, she never hastened to build up her international career, instead she studied further in her native Germany as well as in France and Switzerland. Her performances in recent years have become even more refined, and she has won artistic acclaim in the project to commemorate the 100th anniversary of György Ligeti's birth. Schönberg's Violin Concerto (1936), which she will play on this occasion, is one of her specialties, and she recorded this work with the Swedish Radio Symphony Orchestra under Daniel Harding in 2019.

[Masato Suzuki by Nobuyasu Matsuoka, music critic, Isabelle Faust by Yoshimichi Okuda, music critic]

Anton Webern (1883–1945)

Passacaglia Op. 1

Vienna became a capital of music with the First Viennese School trio Haydn, Mozart and Beethoven, whilst younger Schubert spearheaded the Romanticism in the same city. As time passed, the early 20th century saw the appearance of the Second Viennese School trio, Schönberg (described below), his disciples Webern and Berg. The three composers developed an atonal language free from any major/minor key. Then in 1921, Schönberg fully established the twelve-tone technique, which changed the course of modern music history.

Born into a noble family in Vienna, Webern started to take piano / cello lessons and compose in his teenage years. After studying musicology, harmony and counterpoint at the University of Vienna, he was privately apprenticed to Schönberg in 1904–1908. Later, the devoted pupil went on to adopt the twelve-tone technique more strictly than his venerable teacher.

Webern made his official debut with his op. 1, *Passacaglia* (1908), written at age 24 as a fruit of his four-year training under Schönberg. Still under the influence of the late-Romantic style (especially of Wagner and early Schönberg), the work dates from the period shortly before Webern renounced the tonal language. It is globally chromatic (with halftones) producing tonal ambiguity, despite the eight-note D-minor theme given by the strings' pizzicatos at the outset. Following the Baroque uninterrupted variation form "passacaglia," the theme is then repeated twenty-three times (in D major in the middle of the piece) previous to the extended coda.

Arnold Schönberg (1874–1951)

Violin Concerto Op. 36

Born into a Jewish family in Vienna 150 years ago, Schönberg set foot in the music world through violin lessons he first took at age 8 and started to compose before long. As a composer he was self-taught except for some short-term instruction young Schönberg received from his friend Alexander von Zemlinsky (1871–1942).

As stated above, Schönberg is counted among a handful of revolutionary composers in history by establishing atonal music around the late 1900s, and then the twelve-tone technique (dodecaphony) in 1921. The technique of treating all the twelve notes of an octave equally meant the dissolution of what the traditional harmonies had been depending upon—the hierarchy of the keys and notes. In 1921, he reportedly said that his method "will ensure the supremacy of [Austro-]German music for the next hundred years." Twelve years later, ironically, Nazi Germany forced the Jewish composer to emigrate to the USA. After teaching for a year on the East Coast, he, plagued by ill health, moved to warm California in 1934 and spent the rest of his life there.

Dating from his early Californian period, the Violin Concerto (1936) is dedicated to his disciple Webern. The work has the Classical fast-slow-fast-movement design, whereas it is meticulously constructed with the twelve-tone technique. The first movement begins with the violin solo and cellos stating the prime twelve-tone "row" and then its inversion in a moment (some notes are heard at the same time), before the soloist plays the row plainly (A–B♭–E♭–B–E–F♯–C–C♯–G–A♭–D–F). The beginning of the lyrical slow movement in A–B–A form lets the

soloist sing the same prime row, but starting from E (E–F–B♭–G♭–C♭ …). The jocular rondo finale also has the soloist give the prime row at the outset, this time in inversion, starting from D (D–C♯–G♯–C–G…). Overall, the concerto brilliantly shows how diverse a work on a single twelve-tone row can be in melody, harmony, texture, character and so forth.

Johann Sebastian Bach (1685–1750) / **Anton Webern** (1883–1945)

Ricercata

Schönberg and Webern famously favored J. S. Bach. Apart from their adoptions of Baroque forms, their aforesaid twelve-tone technique was clearly inspired by Bach's supreme contrapuntal (polyphonic) writings, especially his highly systematic but also inventive fugues. Incidentally, Webern's involvement in the past music spanned as early as the pre-Baroque era: he earned a doctorate in musicology at the University of Vienna in 1906 editing the second volume of the Renaissance composer Heinrich Issac's *Choralis constantinus*, a collection of sacred polyphonic songs based on Gregorian chants.

Dating from Webern's late period, *Ricercata* (1935) is an orchestration of Bach's six-part *Ricercar* (*fugue*) from *Das Musikalische Opfer* (*The Musical Offering*) (1747). Webern's version could be considered a re-creation above and beyond an arrangement due to its uniqueness, even though he didn't alter Bach's original notes. The major reason is the utilization of Schönberg's "Klangfarbenmelodie (sound-color melody)" that Webern absorbed. This technique of entrusting a melody to different instrumental timbres in turn, often described "pointillistic," will have a great influence on avant-garde composers after World War II. At the opening of *Ricercata*, Webern thus assigns a trombone, a horn and a trumpet, one by one, the announcement of the fugue's "theme of king" that Frederick the Great gave to Bach. The theme is then orchestrated following "Klangfarbenmelodie" at every entry, before being "played out" at last by cellos, contrabasses, a bassoon and a bass clarinet in unison at the close.

Franz Schubert (1797–1828)

Symphony No. 5 B-flat Major D. 485

Schubert, who uttered his first cry in a kitchen alcove in a Vienna suburb, is a born and bred Viennese. This is actually a rare case, considering none of the First Viennese School masters, Haydn, Mozart and Beethoven were "native" to the city, let alone the Italian composer Salieri who was the Viennese Court's music director and Schubert's composition teacher.

In his school days at the Stadtkonvikt (imperial seminary), Schubert became familiar with works by Haydn, Mozart and Beethoven, performing in and conducting the seminary's student orchestra for which he also composed. According to his school fellow Spaun, Mozart's G-minor Symphony No. 40 and Beethoven's D-major Symphony No. 2 particularly impressed Schubert. After entering the teaching profession in 1814, he continued to compose. The next year was the most prolific in his entire life, and his creativity still overflowed in 1816 producing numerous pieces including the Symphony No. 5. The work was privately premiered the same year in the home of his friend and violinist Otto Hatwig in Vienna. It would be publicly heard after the composer's death, as with all of his other symphonies.

The most evident features of No. 5 are the absence of a slow introduction at the cheerful opening sonata movement as well as the compact instrumentation without clarinet, trumpet,

trombone and timpani. Moreover, Mozart's influence upon the work is almost always pointed out. For instance, the slow second movement in rondo form (A–B–A–B–A–coda) has the graceful recurrent theme which recalls the main melody of the minuet movement from Mozart's Violin Sonata K. 377. A more striking example is Schubert's entire third movement. This fiery G-minor minuet having the G-major trio (central) section resembles the G-minor minuet from Mozart's Symphony No. 40, Schubert's favorite as mentioned above. The final sonata movement evokes the Salzburger genius as well: its vivacious, witty, operatic nature reminds us of, for example, the overture for *Le nozze di Figaro* (*The Marriage of Figaro*). Nevertheless, the symphony as a whole is abundant in poetic songfulness and unpredictable, adventurous harmonies typical of Schubert.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

PROGRAM

C

Concert No.2014

NHK Hall

June

14(Fri) **7:30pm**

15(Sat) **2:00pm**

conductor	Nodoka Okisawa
piano	Denis Kozhukhin
female chorus	The Philharmonic Chorus of Tokyo★
concertmaster	Sunao Goko

[**Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C**]
Friday 14th from 6:45pm / Saturday 15th from 1:15pm
Masayuki Kai (fl.), Kazusa Mizutani (bn.), Risako Hayakawa (hp.)
Jolivet / *Pastorales de Noël* (*Christmas Pastoral*)
★ You may enter and leave as you please during the performance.
★ Enjoy chamber music from your own seat.

Jacques Ibert
Escales (***Ports of Call***) [14′]

I Rome – Palermo
II Tunis – Nefta
III Valencia

Maurice Ravel
Piano Concerto for the Left Hand
D Major [19′]

Lento – Allegro – Tempo Iº

Claude Debussy
Nocturnes★ [22′]

I Nuages (Clouds)
II Fêtes (Festivals)
III Sirènes (Sirens)

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Nodoka Okisawa, conductor

Nodoka Okisawa, based in Berlin and working internationally, is one of the most notable conductors of the younger generation. Since April 2023, she has served as the 14th Chief Conductor of the City of Kyoto Symphony Orchestra. She was born in Aomori, and after studying conducting with Ken Takaseki and Tadaaki Otaka at Tokyo University of the Arts, she went on to further studies at the Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin. In 2019, she won the Grand Prix at the 56th International Besançon Competition for Young Conductors as well as the prizes for the Orchestra's favorite and the public's favorite. She was a scholarship student at the Berliner Philharmoniker Karajan Academy from 2020 to the end of June 2022, while serving as an assistant to Kirill Petrenko. In March 2022, she conducted the Berliner Philharmoniker's Solidarity Concert for Ukraine at the Bellevue Palace, and participated, together with Kirill Petrenko, in the concert to celebrate the Karajan Academy's 50th anniversary. Since then, she has guest-conducted orchestras of the world, including the Kammerorchester Basel, the BBC National Orchestra of Wales, the MDR-Sinfonieorchester, and the Münchner Symphoniker, while conducting major Japanese orchestras. At the Seiji Ozawa Matsumoto Festival 2022, she conducted the Saito Kinen Orchestra to perform Mozart *Le nozze di Figaro*, which won high artistic acclaim.

Her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra was Fresh Concert in Summer in 2020. This will be her first appearance in the orchestra's subscription concert. With the program of French repertoire, I am sure she will draw out rich and vibrant sounds from the NHK Symphony Orchestra.

Denis Kozhukhin, piano

Denis Kozhukhin was born in Nizhny Novgorod, Russia, in 1986 into a family of musicians. He started his piano studies with his mother, and after attending the Balakirev School of Music, he went to Spain, at the age of 14, to study at the Reina Sofía School of Music in Madrid with Dimitri Bashkirov and Claudio Martinez-Mehner. He went on to further studies at the International Piano Academy Lake Como in Italy where he received training from Fou Ts'ong and Stanislav Ioudenitch, and went into the tutelage of Kirill Gerstein in Stuttgart, Germany. After winning 3rd Prize at the Leeds International Piano Competition in 2006, and 1st Prize at the Queen Elisabeth Competition in 2010, he garnered the world's attention, and made his first visit to Japan in 2011. This is his second appearance at the NHK Symphony Orchestra's subscription concert since 2017. On this visit, he will be performing Ravel's Piano Concerto for Left Hand, the work he often plays and even made a recording of in 2017 with the Orchestre de la Suisse Romande under Kazuki Yamada. As the work is one of his specialties, expectations are high for his performance with vivid and playful expression. He has a wide repertoire, and as the 2023-24 season marks anniversary years for Ligeti, Schönberg and Lutosławski , he has been particularly working on their concertos as a tribute.

The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus

The Philharmonic Chorus of Tokyo was formed in 1956 by graduates of the vocal department of the Tokyo University of the Arts. Nobuaki Tanaka, who took the initiative for the group, was appointed as Permanent Conductor, and since then, the chorus has built up their career to lead the development of Japan's choral music performances. It performs more than 100 concerts annually, in addition, it appears in events for children, works with both Japanese and visiting orchestras, and sings in broadcast programs. The chorus also performs overseas, which has helped introduce Japanese choir works to overseas audiences. Since its founding, when choir works with Japanese lyrics were few, the chorus started to commission compositions. It has continued almost every year and now it has more than 250 such works of its own. In recent years, the chorus also commissions composers abroad, thus the sphere of the works they sing has become more diverse. Presently, Nobuaki Tanaka has become Conductor Laureate, and Kazuki Yamada serves as Music Director and Chairman, with Yoshinao Kihara (Principal Conductor), Chifuru Matsubara (Permanent Conductor), Kenji Otani (Permanent Conductor), Hiroyuki Mito (Conductor in Residence), Mitsunobu Takaya (Conductor) and Shigeru Yamada (Conductor).

[Nodoka Okisawa by Yoichi Iio, music journalist, Denis Kozhukhin by Haruka Kosaka, music journalist, The Philharmonic Chorus of Tokyo by Reiko Sekine, music critic]

C

14 & 15. JUNE. 2024

Program Notes | Kumiko Nishi

Jacques Ibert (1890–1962)

***Escales* (*Ports of Call*)**

Born in Paris during the Belle Époque, Ibert entered in 1910 the Paris Conservatoire where his counterpoint and orchestration teacher André Gedalge (who had trained Ravel) influenced him greatly. It was also in Gedalge's class that Ibert met Darius Milhaud (1892–1974) and Arthur Honegger (1892–1955): with Francis Poulenc (1899–1963) and three other composers, Milhaud and Honegger will soon form "Les Six (The Six) ." While this forward-thinking circle livened up Paris until the early 1920s, Ibert was mostly absent from the capital. During the First World War, he went to the front as a nurse first, before being sent to the French northern coast as a naval officer. Then immediately after the war, he won the Prix de Rome (a prestigious scholarship) in 1919 to stay in Rome from 1920 to 1923.

A product of this Italian sojourn, *Escales* (*Ports of Call*) (1922) was premiered in Paris by the Orchestre Lamoureux in 1924 to be highly praised. Inspired by the composer's Mediterranean cruise, this vivid orchestral triptych sets sail from Rome for Sicily, first (I *Rome – Palermo*): muted violins and a flute commence a Debussyan waterscape, and a trumpet subsequently announces the lively Italian folk dance "tarantella". II *Tunis–Nefta* reproduces an Arabic "desertscape" with the oboe's snake-charmer-like meandering tune. III *Valencia* describes a festive scene of the Iberian port town with the rhythms of the Spanish folk dance "seguidilla" as well as castanets and guitar-inspired string effects.

Maurice Ravel (1875–1937)

Piano Concerto for the Left Hand D Major

Most piano works until the early 20th century attach more or less a smaller importance to the left hand than the right hand, unless they are for left hand exercises or some other utmost exceptional purpose. The fact that the French word "gauche" meaning "left" is also the synonym of "awkward" and "clumsy" wouldn't come as a great surprise for many piano players and lovers.

Thus quite unexpected is Ravel's *Le concerto pour la main gauche* (1930) – a piano concerto for the left hand "alone". He composed it at the request of the pianist Paul Wittgenstein who lost his right arm in World War I. Although he also commissioned Korngold (1923), R. Strauss (1925) and Prokofiev (1931) to write a single-handed concerto, it was Ravel's that Wittgenstein chose for his 1934 North American debut after premiering it in Europe in 1932.

This single-movement concerto consists of three slow-fast-slow sections. Over the low strings' arpeggios, the gloomy contrabassoon solo and the horns' undulation start the work. Shortly, the pianist enters playing a cadenza (without orchestra) which is usually placed toward the end: here Ravel's highly elaborate writing already makes us believe the soloist uses two hands. The jazzy fast section in march rhythm is reminiscent of his 1928 American tour. The final slow section has the opening music return for a moment, followed by the soloist's extended, expressive cadenza. The concerto closes all too soon recalling the fast section.

Claude Debussy (1862–1918)

Nocturnes

Born in a Paris suburb, Debussy, a genuine early bloomer, was allowed to enroll in the Paris Conservatoire in 1872 at age 10. Later in 1884, he won the Prix de Rome to stay in the Eternal City like Ibert as mentioned above, although the older man, reportedly bored, wound up his sojourn sooner than scheduled. Revealed in 1894, *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*) brought Debussy into prominence and will be regarded a revolutionary turning point for music history.

Nocturnes (1899) was his first orchestral piece since *Prélude*. Following the 1901 premiere of the entire work by the Orchestre Lamoureux in Paris, Ravel made its piano reduction in 1909 to honor the composer thirteen years his senior.

The three movements of *Nocturnes* render a skyscape, a landscape and a seascape respectively. I *Nuages* (*Clouds*) describes "the slow and melancholic motion of clouds dying away in gray lightly tinged with white" according to Debussy, before II *Fêtes* (*Festivals*) emits "a sudden burst of light". III *Sirènes* (*Sirens*) represents "the sea and its ever-changing rhythm", whilst the wordless women's chorus gives "the mysterious song of sirens" among "moonlit silver waves" (sirens are mythological female sea creatures whose enchanting singing drive sailors to shipwreck). Debussy was to go on reworking *Nocturnes* until his latest years, primarily so that the human voices blend well with the instrumental sounds.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

The Subscription Concerts Program 2024–25

2024 09

A

Concert No. **2016**

September
14 (Sat) 6:00pm
15 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth

Bruckner Symphony No. 8 C Minor (First Version/1887)

Fabio Luisi, conductor

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B

Concert No. **2017**

September
19 (Thu) 7:00pm
20 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Schubert *Overture in the Italian Style* No. 2 C Major D. 591
Schumann Piano Concerto A Minor Op. 54
Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92

Fabio Luisi, conductor
Hélène Grimaud, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2018**

September
27 (Fri) 7:00pm
28 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Tchaikovsky *Variation on a Rococo Theme*, Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)*
Tchaikovsky *The Swan Lake*, ballet Op. 20 (Excerpts)

Tadaaki Otaka, conductor
Rei Tsujimoto (Principal Cello, NHKSO), cello*

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

2024 10

A

Concert No. **2020**

October
19 (Sat) 6:00pm
20 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Honegger Symphony No. 3, *Liturgique*
Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98

Herbert Blomstedt, conductor

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B

Concert No. **2019**

October
10 (Thu) 7:00pm
11 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Sibelius *4 Legends* Op. 22, sym. poem—*The Swan of Tuonela*
Nielsen Clarinet Concerto Op. 57
Berwald Symphony No. 4 E-flat Major, *Sinfonie naïve*

Herbert Blomstedt, conductor
Kei Ito (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2021**

October
25 (Fri) 7:00pm
26 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, *Unvollendete* (*Unfinished Symphony*)
Schubert Symphony No. 8 C Major D. 944, *Große* (*The Great*)

Herbert Blomstedt, conductor

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

2024 11

A

Concert No. **2022**

November
9 (Sat) 6:00pm
10 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Roussel *Bacchus et Ariane*, ballet Op. 43—Suite No. 1 (*Bacchus and Ariadne*)
Bartók Piano Concerto No. 3
Ravel *Valses nobles et sentimentales* (*Noble and Sentimental Waltzes*)
Debussy *Images for Orchestra—Iberia*

Kazuki Yamada, conductor **Francesco Piemontesi**, piano

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B

Concert No. **2024**

November
21 (Thu) 7:00pm
22 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Tchaikovsky Violin Concerto D Major Op. 35
Prokofiev *The Tale of Stone Flower*, ballet —*The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite*
Stravinsky *Symphony in Three Movements*

Dima Slobodeniouk, conductor
Nikita Boriso-Glebsky, violin

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2023**

November
15 (Fri) 7:00pm
16 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Tannhäuser*, opera—Overture
Weinberg Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94
Shostakovich Symphony No. 5 D Minor Op. 47

Andrés Orozco-Estrada, conductor
Reinhold Friedrich, trumpet

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024 12

A — Concert No. 2025

Nov. 30 (Sat) 6:00pm
Dec. 1 (Sun) 2:00pm
– The 1st day concert of the December subscription Program A will be held in November.
NHK Hall

The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Brith

Wagner *Tristan und Isolde* (*Tristan and Isolde*)—*Prelude and Liebestod*
R. Strauss *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)*
R. Strauss *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)*
R. Strauss *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)*
R. Strauss *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)*
R. Strauss *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)*
Schönberg *Pelleas und Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)
Fabio Luisi, conductor **Christiane Karg**, soprano*

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B — Concert No. 2026

December
5 (Thu) 7:00pm
6 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Smetana *The Bartered Bride*, opera—Overture
Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30
Mussorgsky / Ravel *Pictures at an Exhibition*, suite

Fabio Luisi, conductor
Nelson Goerner, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C — Concert No. 2027

December
13 (Fri) 7:00pm
14 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Liszt *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)
Liszt *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern* (*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)*

Fabio Luisi, conductor
Jamez McCorkle, tenor* **Tokyo Opera Singers**, male chorus*

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

2025 01

A — Concert No. 2028

January
18 (Sat) 6:00pm
19 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Shostakovich Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B — Concert No. 2030

January
30 (Thu) 7:00pm
31 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mussorgsky / Liadov *The Fair at Sorochyntsi*, opera—*Introduction, Gopak*
Bartók Violin Concerto No. 2
Dvořák Symphony No. 8 G Major Op. 88

Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (**First Concertmaster, NHKSO**), violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C — Concert No. 2029

January
24 (Fri) 7:00pm
25 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Stravinsky *Pulcinella*, ballet
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2025 02

A — Concert No. 2031

February
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Zemlinsky *Sinfonietta*, Op. 23
R. Strauss Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11
Dvořák *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110
Janáček *Sinfonietta*

Petr Popelka, conductor
Radek Baborák, horn

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B — Concert No. 2032

February
13 (Thu) 7:00pm
14 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart *Vado, ma dove?*, aria K. 583*
Mozart *Alma grande e nobil core*, aria K. 578*
Mozart Symphony No. 25 G Minor K. 183
Mozart *Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528*
Schumann Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie* (*Spring Symphony*)

Petr Popelka, conductor **Ema Nikolovska**, mezzo soprano*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C — Concert No. 2033

February
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Suppè *Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)
Saint-Saëns Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61
Suppè *Dichter und Bauer*, operetta—Oveture (*Poet and Peasant*)
Offenbach / Rosenthal *Gaîté Parisienne*, ballet (Excerpts) (*Parisian Gaiety*)

Tatsuya Shimono, conductor
Fumiaki Miura, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025 04

A

Concert No. **2034**

April
12 (Sat) 6:00pm
13 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Berlioz *Harold en Italie*, symphony (*Harold in Italy*)*
Prokofiev Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)

Paavo Järvi, conductor
Antoine Tamestit, viola*

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B

Concert No. **2035**

April
17 (Thu) 7:00pm
18 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Stravinsky *Petrushka*, ballet (Complete, 1947 Version)
Britten Piano Concerto Op. 13
Prokofiev *The Love for Three Oranges*, symphonic suite Op. 33bis

Paavo Järvi, conductor
Benjamin Grosvenor, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.

2025 05

A

Concert No. **2036**

April
26 (Sat) 6:00pm
27 (Sun) 2:00pm
– Program A of the May subscription concerts will be held in April.

NHK Hall

The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025

Mahler Symphony No. 3 D Minor

Fabio Luisi, conductor
Olesya Petrova, mezzo soprano
Tokyo Opera Singers, female chorus
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

	Ordinary	Youth
S	15,000	7,000
A	12,500	6,000
B	10,000	5,000
C	8,000	4,000
D	6,500	3,000
E	4,500	2,000

B

Concert No. **2037**

May
1 (Thu) 7:00pm
2 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 (only Mahler)

Berg Violin Concerto
Mahler Symphony No. 4 G Major*

Fabio Luisi, conductor
Akiko Suwanai, violin **Maki Mori**, soprano*

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2038**

May
30 (Fri) 7:00pm
31 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Schubert *Rosamunde*, overture
Dohnányi *Variations on a Nursery Tune*, Op. 25*
R. Strauss Symphonic Fantasy from *Die Frau ohne Schatten* (*The Woman without a Shadow*)
R. Strauss Suite from *Der Rosenkavalier* (*The Rose-Bearer*)
Giedrė Šlekytė, conductor
Mao Fujita, piano*

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

2025 06

A

Concert No. **2039**

June
7 (Sat) 6:00pm
8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Rimsky-Korsakov *May Night*, opera—Overture
Rakhmaninov *Rhapsody on a Theme of Paganini*, Op. 43*
Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, *Pathétique*

Vladimir Fedoseyev, conductor
Yulianna Avdeeva, piano*

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B

Concert No. **2040**

June
12 (Thu) 7:00pm
13 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Ibert Flute Concerto
Bruckner Symphony No. 6 A Major

Juanjo Mena, conductor
Karl-Heinz Schütz, flute

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2041**

June
20 (Fri) 7:00pm
21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Korngold Violin Concerto D Major Op. 35
Mahler Symphony No. 1 D Major, *Titan*

Tarmo Peltokoski, conductor
Daniel Lozakovich, violin

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+

利用登録はこちらから

https://plus.nhk.jp/info/

総合・Eテレの番組を
スマホやタブレット・
パソコン・テレビ※1(一部)で
放送から1週間※2何度でも
お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ
※2 地域の番組の一部は最長2週間配信

アプリで便利に！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ
らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。http://www.nhk.or.jp/radio

放送が終わっても
楽しめる！
聴き逃し

放送終了後1週間／
聴き逃し対象番組のみ

スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ
◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラnet

NHK財団の最新情報はこちらから

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。
N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、
広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く**「NHKこども音楽クラブ」**、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート**「N響ほっとコンサート」**、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく**「N響といっしょ! 音を楽しむ!!」**などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組むなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

優れた音楽家を育てる

1950年代に**「指揮研究員」**制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に**「N響アカデミー」**を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員
平石章人、湯川紘惠

N響アカデミー在籍者
ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨、山本大心　ヴィオラ：和田志織　チェロ：渡邊ゆかり
コントラバス：桑原孝太朗　クラリネット：浦畑尚吾
（2024年6月1日現在）

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や**高齢者施設**を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひと時をお届けしています。また**被災地**にも出向き、演奏を通じての現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して**外国人留学生を公演に招待**しているほか、演奏指導などを通じて**ベトナム国立交響楽団との交流**を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。2021年からは**東京工科大学**の授業の一環に協力して**N響コンサートのYouTube配信**を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

役員等・団友

役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野谷公一　三溝敬志
理事	相川直樹　内永ゆか子　岡田知之　笠原裕之　杉山博孝　銭谷眞美　團 宏明　毛利 衛
監事	浜村和則　江口貴之
評議員	稲葉延雄　江頭敏明　樺山紘一　熊埜御堂 朋子　清野 智　田中宏暁　檀 ふみ　坪井節子 前田昭雄　松居 径　三浦 惺　山名啓雄　渡辺 修

事務局

演奏制作部

岩渕一真　沖 あかね　黒川大亮
山田大祐　内山弥生　上原 静
石井 康　徳永匡哉　木村英代
利光敬司　髙橋 啓
髙木かおり　宮﨑則匡

企画プロモーション部

田内誠人
猪股正幸
吉賀亜希
三浦七菜子

経営管理部

野村 歩　姫野 恵
浅田武志　杉山真知子
山本能寛
吉田麻子
目黒重治

技術主幹

尾澤 勉

芸術主幹

西川彰一

団友

名誉コンサートマスター

堀 正文

ヴァイオリン

板橋 健
梅澤美保子
海野義雄
大澤 浄
大林修子
大松八路
金田幸男
川上朋子
川上久雄
窪田茂夫
黒柳紀明
公門俊之
齋藤真知亜
酒井敏彦
清水謙二
鈴木弘一
田渕 彰
田中 裕
鶴我裕子
徳永二男
中瀬裕道
永峰高志
根津昭義
堀 伝
堀江 悟
前澤 均
宮里親弘
武藤伸二
村上和邦
山口裕之
蓬田清重

ヴィオラ

大久保淑人
小野富士
梯 孝則
河野昌彦
菅沼準二
店村眞積
田渕雅子
中竹英昭
三原征洋
村山 弘
渡部啓三

チェロ

岩井雅音
木越 洋
齋藤鶴吉
三戸正秀
銅銀久弥
丹羽経彦
平野秀清
藤本英雄
茂木新緑

コントラバス

井戸田善之
志賀信雄
田中雅彦
中 博昭
佐川裕昭
新納益夫

フルート

菅原 潤
細川順三
宮本明恭

オーボエ

青山聖樹
北島 章
浜 道晃
茂木大輔

クラリネット

磯部周平
加藤明久
横川晴児

ファゴット

岡崎耕治
霧生吉秀

ホルン

大野良雄
田村 宏
中島大之
樋口哲生
松崎 裕
山田桂三
山本 真

トランペット

井川明彦
北村源三
来馬 賢
関山幸弘
津堅直弘
栃本浩規
福井 功
佛坂咲千生

トロンボーン

伊藤 清
神谷 敏
栗田雅勝
三輪純生

テューバ

多戸幾久三
原田元吉

打楽器

有賀誠門
岡田知之
瀬戸川 正
百瀬和紀

ピアノ

本荘玲子

理事長

曽我 健
田畑和宏
野島直樹
日向英実
木田幸紀
森 茂雄
今井 環
根本佳則

役員

加納民夫
唐木田信也
斉藤 滋
関川精二
鳴嶋郁夫
原 武
山崎大樹

事務局

稲川 洋
入江哲之
金沢 孝
小林文行
清水永一郎
関 照枝
中馬 兜
出口修平
西村集介
労賀由明
松崎ユリ
望戸一男
諸岡 淳
吉田博志
渡辺 克
渡辺克己

フィルハーモニー2024年6月号｜第96巻 第5号
2024年6月1日発行　ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL：(03) 5793-8111 / FAX：(03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集：(一財)NHK財団
取材・編集：㈱アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン：寺井恵司

印刷：佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

新刊書籍のご案内

目利き京料理店主が蒐めた最旬の古陶磁コレクション図録

富小路やま岸蒐蔵古陶磁名品選

“超絶予約困難店”と呼ばれる大人気京料理店「富小路やま岸」の主人・山岸隆博氏が蒐集した「最高の料理を載せるための最高のうつわ」たち。志野・織部・唐津・高取・初期伊万里・古染付・祥瑞など多くの古陶磁ファンを唸らせるミュージアムピースばかり数百点を満載した東京進出記念豪華本を限定出版。

著者 山岸隆博　　13,200円（税込）
＊目の眼ウェブサイト、Amazon等で好評販売中

月刊誌『目の眼』、公式ウェブサイトやSNSで、
骨董・古美術に関連する様々な情報や愉しみ方を
お届けしています。

目の眼デジタル読み放題月額サービス
まもなく開始！

目の眼 ME to ME SINCE 1977
menomeonline.com

NHK 音楽祭 2024

NHK MUSIC FESTIVAL

世界に名を馳せる名門ブラスバンド、
壮大さと繊細さを兼ね備えた
鮮やかなコントラストがもたらす、
音楽の喜び

© John Stirzaker

© 堀田力丸

10月28日(月) 19:00開演

ブラック・ダイク・バンド

指揮：ニコラス・チャイルズ

ピアソラ／リベルタンゴ
ラヴェル／ボレロ
ジョン・ウィリアムズ／
映画「ハリー・ポッター」シリーズから
ほか

“音の魔術師”デュトワ、
N響との原点「春の祭典」で熱狂を再び！
ロシア・ピアニズムの真骨頂
ルガンスキーによるラフマニノフも必聴

© Chris Lee

写真提供：NHK 交響楽団

10月30日(水) 19:00開演

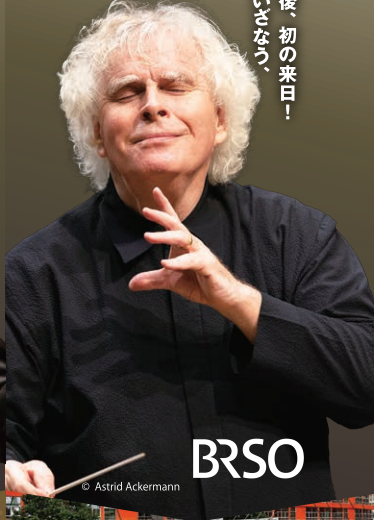
NHK交響楽団

指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：ニコライ・ルガンスキー

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 ハ短調作品18
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

共催：NHK交響楽団　協賛：岩谷産業

ラトル首席指揮者就任後、初の来日！
新時代を迎えるオケがいざなう、
マーラーの深淵



© Astrid Ackermann

© Astrid Ackermann

11月28日(木) 19:00開演

バイエルン放送交響楽団

指揮：サイモン・ラトル

パートウィッスル／
サイモンへの贈り物 2018
マーラー／交響曲第7番 ホ短調「夜の歌」

NHKホール

先行抽選販売
6月1日(土)～6月12日(水)

一般販売
6月27日(木) 10:00～

入場料（消費税込）

公　演	公演日	開演	終演予定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-29席
ブラック・ダイク・バンド	10/28（月）	19:00	21:00		6,000	5,000	4,000	3,000		
NHK交響楽団	10/30（水）	19:00	21:00	17,000	15,000	12,000	9,000	6,000	5,000	2,500
バイエルン放送交響楽団	11/28（木）	19:00	21:00	33,000	28,000	24,000	17,000	12,000	8,000	3,500

割引チケットのご案内（SS席～B席対象）
N響とバイエルン放送響を同時に2公演お申込みいただいた場合、料金が5%割引になります。取り扱いは、NHKプロモーションの「インターネット受付」「電話予約」のみです。詳しくは、NHKプロモーションまでお問い合わせください。※ブラック・ダイク・バンド公演は、割引対象外です。

●お問い合わせ
ハローダイヤル　050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)
NHKホームページ　http://nhk.jp/event

NHKプロモーション　音楽祭係
TEL. 03-3468-7736 / 平日11:00～17:00
https://www.nhk-p.co.jp/

主催：NHK　NHKプロモーション

明電舎 presents

N響 名曲コンサート2024

彩りあふれる物語と風景、オーケストラが空想の世界に誘う

Pascal Rophé

指揮：パスカル・ロフェ

Jonathan Fournel

ピアノ：ジョナタン・フルネル

ブリテン ｜ 歌劇「ピーター・グライムズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a
Britten ｜ *Peter Grimes*, opera ― *Four Sea Interludes* Op. 33a

ラヴェル ｜ 左手のためのピアノ協奏曲 ニ長調
Ravel ｜ Piano Concerto for the Left Hand D Major

フォーレ ｜ 組曲「ペレアスとメリザンド」作品80
Fauré ｜ *Pelléas et Mélisande*, suite Op. 80

ドビュッシー ｜ 交響詩「海」
Debussy ｜ *La mer*, three symphonic sketches

管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

2024年9月9日［月］7:00pm ｜ サントリーホール

■ 発売開始：5月24日［金］10:00am　■ N響定期会員先行発売：5月14日［火］10:00am

■ 料金（税込）

一般	
SS	¥8,500
S	¥6,500
A	¥5,000
B	¥3,500
C	¥2,500

ユースチケット（29歳以下）	
SS	¥4,200
S	¥3,200
A	¥2,500
B	¥1,700
C	¥1,200

※定期会員は一般料金から10％割引

■ 前売所

- WEBチケットN響：https://nhkso.pia.jp
- N響ガイド：0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター：0570-55-0017　suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ：pia.jp/t/nhkso
- e+（イープラス）：eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット：l-tike.com/nhkso

［お問い合わせ］
N響ガイド 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm（営業日はN響ホームページをご覧ください）

※ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。　※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。　※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。　※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。　※未就学児のご入場はお断りしています。　※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。　※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛：MEIDEN 株式会社 明電舎　主催：NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響
Summer Concert 2024
「夏」

この夏、自然の情景の中で
想像の翼を広げてみませんか

2024［東京公演］
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

主催：NHK ／ NHK交響楽団　協賛：岩谷産業株式会社

2024年 **7月12日（金）7:00pm　NHKホール**
Friday, July 12, 2024 7:00p.m. NHK Hall

シベリウス
ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47
Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47

ベートーヴェン
交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」
Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, *Pastorale*

© Marco Borggreve

© Nikolaj Lund

指　揮
グスターボ・ヒメノ
Gustavo Gimeno, conductor
※当初発表の指揮者から変更となりました。

ヴァイオリン
ノア・ベンディックス・バルグリー
Noah Bendix-Balgley, violin

管弦楽
NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

発売開始　5月24日（金）10:00am
（定期会員先行発売：5月14日（火）10:00am）

お問い合わせ　N響ガイド 0570-02-9502
※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

料金（税込）　※定期会員は一般料金から10%割引

［一　般］	S：¥7,300	A：¥5,300	B：¥3,300　C：¥2,100
［ユースチケット］（29歳以下）	S：¥3,600	A：¥2,600	B：¥1,600　C：¥1,000

nhkso.or.jp

Follow us on

水素で世界を動かせ。
Iwatani
岩谷産業株式会社

N響定期を75分で「いいとこどり」!

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響ウェルカム・コンサート

NHKSO Welcome Concert

©Naoya Yamaguchi

9月にシーズンが始まる「N響定期公演」の直前に行われるのがこのコンサート。名作揃いの定期公演プログラムから、選りすぐりの聴きどころを75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。

オーケストラは初めてという方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、とにかく手っ取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。

定期公演ってなに?

プロのオーケストラにとって「定期公演」は活動の中心となる大切なコンサート。N響では1927年に第1回が行われ、2023年12月に第2000回を迎えました。A・B・Cの3つのシリーズ毎に年間9回(★)各2日ずつ、合計年間54公演(★)にわたって世界的な指揮者・ソリストたちと演奏を繰り広げます。

★2024-25シーズンのCプログラムは年間8回のため、合計年間52公演です。

スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲 から(2月C)
ドビュッシー／「イベリア」―「祭りの朝」(11月A)
シューマン／交響曲 第1番「春」― 第2楽章(2月B)
マーラー／交響曲 第1番「巨人」― 第2楽章(6月C)
チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲 ― 第6、7変奏*(9月C)
プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」結婚組曲 ―「結婚の歌」(11月B)
ブラームス／交響曲 第4番 ― 第3楽章(10月A)
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」―「バーバ・ヤガーの小屋」「キエフの大門」(12月B)

2024.9.5〔木〕 7:00pm

休憩のない75分程度の公演です。

NHKホール

指揮:下野竜也(N響正指揮者)
チェロ:辻本 玲*(N響首席チェロ奏者)
ナビゲーター:大林奈津子

発売開始 5月24日(金)10:00am(定期会員先行発売:5月14日(火)10:00am)

前売所
◎WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp
◎N響ガイド 0570-02-9502 ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
◎e+(イープラス) eplus.jp/nhkso ◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。※未就学児のご入場はお断りしています。※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ:N響ガイド 0570-02-9502 営業時間:10:00am～5:00pm
※営業日はN響ホームページをご覧ください。※主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。※電話受付のみの営業となります。

主催:NHK／NHK交響楽団

料金(税込／全席指定)

NHKホールが1ランク設定
良席はお早めに!
一般:¥1,800／定期会員:¥1,200

29歳以下はさらにお得
ユースチケット(29歳以下)¥500

お得にみんなでNHKホールに!
ウェルカム・ペアチケット
(2枚1組):¥2,000
※一般・定期会員共通料金

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

＼夏だ！祭りだ!!／

N響ほっと コンサート

世界ぐるっと名曲の旅

NHKSO HOTTO CONCERT

楽器をさわって音を出してみよう
N響メンバーによる
楽器体験工房
オープニングはファンファーレでお出迎え

2024年7月27日（土） 3:30pm
（開場 2:00pm）
NHKホール（東京・渋谷）

©Kaupo Kikkas
指揮：クリスティーナ・ポスカ

©Irina Schymchak
ピアノ：アレクサンドラ・ドヴガン

管弦楽：NHK交響楽団

ジョン・ウィリアムズ／オリンピック・スピリット（アメリカ）
エッレル／マイ・ホームランド（エストニア）
ブリテン／青少年のための管弦楽入門（イギリス）
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調から 第1楽章（ノルウェー）
ヨハン・シュトラウスⅠ世／ラデツキー行進曲（オーストリア）
マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲（イタリア）
ビゼー／「アルルの女」組曲 第2番 ―「ファランドール」（フランス）

発売開始 5月24日（金）10:00am（定期会員先行発売：5月14日（火）10:00am）

前売所

◎WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp
◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso
◎N響ガイド 0570-02-9502
◎e+（イープラス） eplus.jp/nhkso

※「小・中学生」のチケットはすべての前売所でご購入いただけます。
※「29歳以下（ユースチケット）」はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
　初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※小学生は、保護者の方と一緒にお越しください。
※未就学児のご入場はお断りしています。
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
　公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm（定休日：土・日・祝日）
※主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。
※電話受付のみの営業となります。

主催：NHK／NHK交響楽団
協賛：株式会社NTTドコモ
協力：株式会社グローバル／グローバル管楽器技術学院

Follow us on nhkso.or.jp

「N響ほっとコンサート」公式Xアカウント オープン！ このコンサートのさまざまな情報を発信します

PHILHARMONY 6 フィルハーモニー 第96巻第5号 ISSN 1344-5693 定価300円 消費税込み

脱炭素の道へ。
水素とLPガスが加速する。

2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。
イワタニはLPガス・Marui gas（マルオプロパン）の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし
脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。
さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した
低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の
水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。
私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ
クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガス シェアNo.1※

※国内における販売シェア（ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ）

Iwatani
岩谷産業株式会社